



CSR 報告書

2010

人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する

株式会社 ピーエス三菱

編集方針～本報告書でお伝えしたいこと

社会資本の充実に寄与する建設事業という仕事には、お客様、監督官庁、(施工)協力会社、地域住民の皆様、建設生産物をお使いになるユーザーの皆様など、じつにさまざまなステークホルダーの皆様が関わりを持ちます。ピーエス三菱では、こうした皆様に当社の考え方や取り組みについて誠実にかつ正確にお伝えするため、2007年度より毎年、「CSR報告書」を発行しています。

ピーエス三菱では、経営理念に基づく「本業」を通じた社会貢献(社会的価値の創造)をCSRの目的としていますが、2010年度の「CSR報告書」では、このことについて読者の皆様によりよくご理解いただくため、「常に新しい技術の開発にチャレンジ」「安全で高品質な建設生産物を供給」「地球環境保全に貢献」など、当社の企業理念の中で示されている「指針」が、実際の企業活動の中ではどのような取り組みの形で実施されているのかということに視点を置いた編集を行いました。

また、本報告書では、限りある誌面スペースを、「CSR活動の基本方針」に関連する記述なども含めて、上記のような当社の経営姿勢や実際の取り組み例に関する記述により多く割りあてたことから、環境関連の記述が例年よりも少なくなっております。詳細につきましては当社Webサイトに掲載しておりますので、併せてご覧いただき、忌憚のないご意見など、アンケートを通じてお寄せいただければ幸いです。

対象範囲

対象組織
株式会社ピーエス三菱および連結子会社・持分法適用会社の計10社(2010年3月31日現在)を「ピーエス三菱グループ」とし、国内における事業活動についてのみ報告しています。

対象期間
2009年度(2009年4月1日より2010年3月31日まで)を原則としていますが、2010年度に関連する活動も一部掲載しています。

参考にしたガイドライン

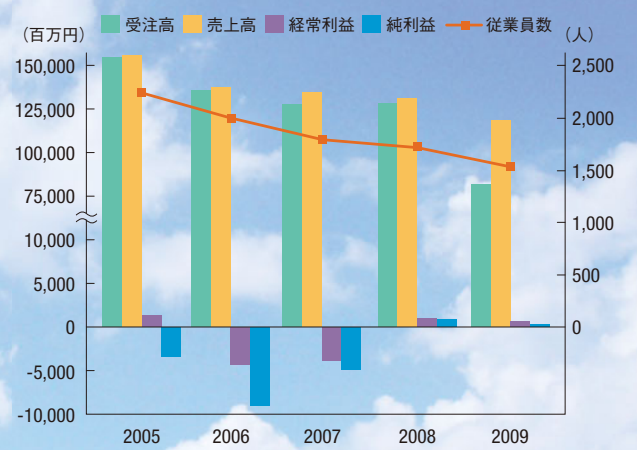
環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」
GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006

発行日:2010年12月30日
次回発行は2011年10月を予定しています。

会社概要

会 社 名 株式会社ピーエス三菱
(P.S.Mitsubishi Construction Co.,Ltd.)
設 立 1952年(昭和27年)3月1日
資 本 金 42億1,850万円
本 社 東京都中央区晴海二丁目5番24号
晴海センタービル
代 表 者 代表取締役社長 勝木 恒男
建設業許可 国土交通大臣特定建設業(特-19)第1271号
宅地建物取引 国土交通大臣(2)第6332号
業 者 許 可 東京都知事登録 第52905号
一級建築士 東京都知事登録 第49669号
事 務 所 宮城県知事登録 第09810073号
愛知県知事登録 (い-19)第10303号
大阪府知事登録 (ロ)第19191号
広島県知事登録 07(1)第3762号
福岡県知事登録 第1-12072号

決算・人員数値(連結)



C o n t e n t s

トップコミットメント 03

ピーエス三菱のCSR 05

持続可能な社会の実現に貢献するピーエス三菱の技術

■ピーエス三菱のコアテクノロジー
PC(プレストレスト・コンクリート)関連技術 ... 07

■維持補修分野のテクノロジー
「壊して造る」から「補修して使う」
長寿命化の技術 11

2009年度における主なPC工事 13

ピーエス三菱のマネジメント体制

コーポレート・ガバナンス 15

コンプライアンスとリスクマネジメント 18

ステークホルダーとの協働

お客様とともに、そして地域とともに 23

協力会社とともに 27

株主とともに 32

従業員とともに 33

環境への取り組み

環境方針 46

環境経営 37

事業活動とマテリアルフロー 38

環境マネジメントシステム 39

環境会計 40

環境負荷低減成果 40

ピーエス三菱の国内ネットワーク 42

ステークホルダーとの協働を通じ、
ピーエス三菱を、CSRの確立によって社会から「信頼される会社」に、
そして収益性にも優れた「光る会社」にしていきたいと考えています。



代表取締役社長

勝木 恒男

「リカバリーピーエス三菱」のスローガンのもと経営基盤強化につとめる

昨今の日本経済の低迷に伴い、建設業を取り巻く事業環境は著しく悪化しております。この影響を受けてピーエス三菱は2004年から2007年において4期連続最終赤字となりました。2008年度から当社を黒字体質に改善し、活気ある会社にするために「リカバリー三菱」をスローガンに掲げ「3カ年経営計画」をスタートさせました。再生プロジェクトとして「受注管理」「原価管理」の強化などの施策を実行し、組織や業務の効率化を図りました。一方、ピーエス三菱が創業以来手掛けているPC（プレストレスト・コンクリート）技術の応用の拡大を図り、再強化することにより、他社との差別化を図ることにしました。

結果として、2008年度、2009年度と最終損益は黒字となりましたが、2010年度はまさに再生の仕上げとなる年です。この3年間の実績でピーエス三菱の経営基盤が極めて強化されるものと考えています。

ピーエス三菱の考えるCSR

CSRとは、ステークホルダーの皆様との対話を通して、当社に対する期待や要請を事業戦略に取り入れ、本業を通じて社会的な課題の解決にあたることだと考えております。すなわち、建設業を通じて良質な社会資本の整備に寄与し、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という当社の基本理念を実現することこそCSRと考えております。

当社は三菱グループの一員ですが、公益重視などをうたった三菱の創業精神である「所期奉公」「处事光明」「立業貿易」からなる「三綱領」はまさにCSRそのものであると言えます。

PCのパイオニアとして、持続可能な社会の実現に貢献

ピーエス三菱は、PC技術のパイオニアとして、わが国初のPC橋である「長生橋」をはじめとして、数多くの橋を架け地域の皆様の利便性を図り、良質な社会資本の整備に貢献してまいりました。また、プレキャスト（PCa）工法により、その特性である耐久性や長寿命化に加え、現場での型枠・鉄筋・コンクリート工事などを在来工法に比べて低減できることから、CO²発生の抑制や型枠材などの省資源化に効果的なテクノロジーとして建築物にも数多く使用されています。当社ではこれらの技術の応用の拡大を図り、研究開発と施工経験を積み上げていくことで、当社が目指す「わが国トップのPCゼネコン」たる資質を養いつつ、持続可能な社会の実現に貢献していく考えです。

全従業員がプライドを持つこと

2010年度で当社のCSR体制も4年目を迎えておりますが、現状においては積極的な社会貢献や環境に関する取り組みが十分とはいえず、「攻めのCSR」も視野に入れる必要があると考えております。地球環境には喫緊の課題であり、当社グループ工場のPC製品の環境面におけるさらなる優位性の向上も含め、新たな技術開発も進めていかなければと考えております。

CSR活動を推進するうえで必要なのはステークホルダーとの協働です。なかでも重要なのが従業員であります。常に従業員が働きがいのある職場環境において、社会にとって革新的で有益な価値を創造することが理想であると考えます。そして、なにより当社並びに当社グループの全従業員が自分たちの仕事にプライドを持つことが重要であり、そのプライドこそがCSR活動の原動力となるものだと考えております。

私たちはピーエス三菱をCSRの確立によって「信頼される会社」に、収益性をもって「光る会社」にしていきたいと考えています。

今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ピーエス三菱のCSR

経営理念

「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」の基本理念に基づき、高度な社会資本の充実に寄与するために常に新しい技術の開発にチャレンジし、建設事業を通じて安全で高品質な建設生産物を供給する。また、地球環境保全に貢献するため公害防止と自然保護に積極的に取り組む。

※当社の経営理念は、2005年の新生・ピーエス三菱の発足にともない、「企業倫理の確立に取り組み、公正な企業活動を通じて社会に貢献するとともに、創造的で清心なる企業風土を築く」という趣旨で制定されたものです。

ピーエス三菱のCSR

現代ほど、企業に対して様々な形での社会貢献が期待されている時代はありません。

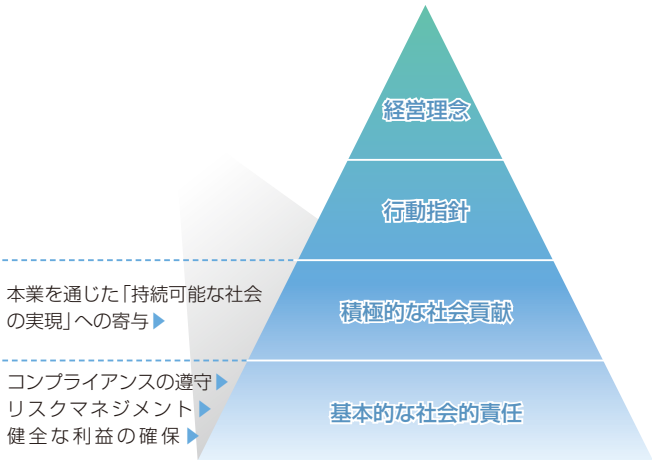
当社におけるCSRの目的は、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という「基本理念」（言い換えれば、私たちの「存在意義」）に沿った社会的価値の高い企業活動を真摯に実践していくこと——すなわち「当社ならではの社会貢献」を通して企業価値を向上させてまいると同時に、社会的な評価を高めていくことで、ピーエス三菱を従業員の皆が「誇りの持てる会社」にしていくことです。

当社の基本理念が見据えている「未来」は、まさに「持続可能な社会」であり、経営理念にある「常に新しい技術の開発にチャレンジ」「建設事業を通じて安全で高品質な建設生産物を供給」「地球環境保全に貢献」という3つのキーワードは、その取り組みの具体的な方向性を示しています。CSR経営を通じて、私たちは、コンプライアンスを遵守し、リスクを適正に管理して健全経営に努めるという「基本的な社会的責任」果たしながら、ステークホルダーとともに、建設業という「本業」を通しての積極的な社会貢献を行ってまいります。

CSRの基本活動方針

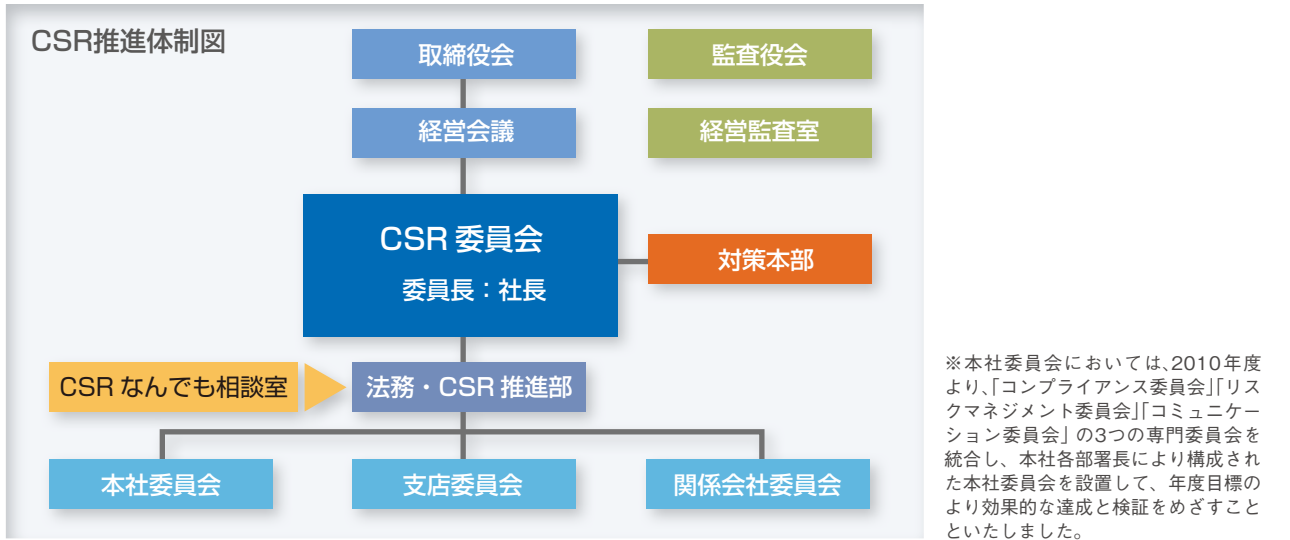
ピーエス三菱では、CSRの基本活動方針として4つの方針を掲げています。これらの方針のもと、年度目標と活動計画を作成し、経営理念の実現に向けてグループ会社全体でPDCAプロセスによる継続的なCSRへの取り組みを積極的に推進していきます。

- コンプライアンスの徹底** 「公明性」と「透明性」をキーワードに風通しのよい組織を構築する。
- リスクマネジメントの推進** リスクの調査、選定、リスクに対する対策の強化を実施する。
- ステークホルダーコミュニケーションの推進** 企業市民としてステークホルダーの期待に応え、対話を図る。
- 地域社会への貢献** 「ものづくり」の拠点として工場・作業所・技術研究所の地域貢献活動を推進する。



ピーエス三菱のCSR推進体制

ピーエス三菱グループにおけるCSRの年度目標と活動計画(P)は、社長が委員長を務める「CSR委員会」において作成し、「経営会議」の承認を得て「本社委員会」、「支店委員会(東京・大阪)」、「関係会社委員会(5社)」に到達されます。各委員会においては、本社各委員会は本部長、支店は支店長、関係会社は社長など各組織のトップが責任者となり、各部署ごとに選任された「CSRサポーター」が活動のイニシアチブを取ります(D)。活動の進捗状況はそれぞれ「上期評価」と「年間評価」が「評価表」にまとめられ(C)、詳細なレポートともに、年2回開催されるCSR委員会まで提出され、下期に向けた改善指導(A)や次年度の目標作成(P)が行われています。



2009年度CSR目標と実績

2009年度CSR目標	年間実績
「リカバリーピーエス三菱」再生プロジェクトの完遂 ● コンプライアンスによる企業価値の向上 ● 原価・損益の「見える化」の推進 ● 与信管理の徹底	損益管理システムなどの導入で原価や損益の「見える化」が進み、全社的な管理手法は大きく進展した。依然として利益悪化工事の発生はあるものの、その規模や件数は減少傾向であった。CSRとしては、全部署のリスクマネジメント活動によるリスクの数値化をテーマにPDCAサイクルを回してきた。リスク選定に各部署バラツキはあるものの、数部署において低減効果が確認された。 コンプライアンス面では、職場環境や倫理観に個人差もあるため、然るべき学習機会を設け、全体的なレベルの底上げとリスクが埋没しない体制作りが求められる。
安全・品質に対する全社サポートの推進 ● 「ご安全に」声かけの励行(会議など) ● リスクアセスメントの100%実施 ● 不具合・災害事例の「見える化」による水平展開の推進 ● 技術の伝承に対する取り組みの強化	労働災害の発生は昨年に比べて激減し、好成績となった。現場におけるリスクアセスメントの効果向上もその一因と考える。また、全社的に「ご安全に！」の声掛けを励行してきたが、諸会議で実行され、全社的な意識浸透に努めることが出来た。安全については、受注機会の減少に繋がる特に大きなリスクになっているため、今後も意識向上に向け、継続して「ご安全に！」励行したい。 工事不具合については、依然として大小様々な事例が発生しており、対応策が急務である。
内部通報制度による自浄機能の促進 ● 内部通報制度のグループ適用化の周知 ● CSRなんでも相談室の周知徹底 ● 通報者保護を目的とした内部通報制度の研修実施	今年度においては、技術者研修や関係会社担当者会議、サポーター研修会などで「CSRなんでも相談室(内部通報制度)」の周知を図った。これにより、期末に実施したCSR活動アンケートにおいて、「CSRなんでも相談室」そのものや相談室の運用規程の認知度が僅かではあるが増加傾向の結果となった。
風通しのよい職場環境の整備 ● 三ざる(見ざる・言わざる・聞かざる)の防止と「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」の徹底 ● 社長チャンネル、週報制度によるコミュニケーションの推進	コミュニケーション機会は、各場所にて適宜設けられた旨の報告があがっている。しかしながら、CSRサポーターの自部署への効果的な展開といった面ではアンケートを通して確認することが出来なかった。「サポーター任せ」という感想を多くのサポーターが記述しており、コミュニケーション機会の量的な評価もさることながら今後は質的な評価も求められるように思われる。コンプライアンスやリスクマネジメントにおけるコミュニケーション機能の重要性は大きく、風通しのよい職場環境構築に向け、さらなる社内コミュニケーションの推進を図る必要がある。
財務報告に係る内部統制の完全実施 ● 運用における欠陥を許さない、厳格でタイムリーなチェックの徹底	3点セット「業務記述書、業務フロー、リスクコントロールマトリックス」を見直し、イントラに掲載したが、アンケートの結果、内部統制の従業員認識は低かった。 J-SOX内部統制の整備・運用評価を経営監査室および内部統制評価委員で本社・各支店の内部監査を実施した。整備評価では不備が発見されたが、各支店長よりは正報告が提出され、12月に運用評価を行いサンプル数826件をチェックし、不備0件で内部監査は「有効」と評価した。

ピーエス三菱のコアテクノロジー

PC(プレストレスト・コンクリート)関連技術

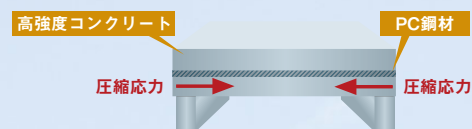
PC(プレストレスト・コンクリート)技術は、当社の前身企業が1951年に石川県七尾市に架設した、日本初のPC橋「長生橋」をルーツとする「ピーエス三菱のコアテクノロジー」です。以来、当社はパイオニアとして日本におけるPC関連技術の進展に寄与してきました。長寿命化による省資源化、環境負荷の低減化など、環境保全面でもメリットの多いPC関連技術は、私たちがめざす持続可能な社会に適したテクノロジーと言え、私たちは今後もさらなる研究開発と施工実績を重ねることで社会に貢献していく考えです。

PC(プレストレスト・コンクリート)の特徴

■コンクリートは圧縮力に強く、引張力に弱い



■プレストレスト・コンクリートは、高強度コンクリートを使用し、PC鋼材(高強度鋼材)によりあらかじめ圧縮応力(プレストレス)を加えて、「引張力に弱い」というコンクリートの弱点を大幅に改善したコンクリートです。



「50年経っても強度が衰えなかった」長生橋
河川改修にともなう移設問題が起こり、現地保存の可能性を調査するため行った、建設業者や金沢大学工学部の研究グループによる耐久性の公開実験の結果、架設後50年を経ても橋の強度がほとんど衰えていなかったことを確認。PC技術の優秀性をあらためて再確認したという記事が新聞に掲載されました。

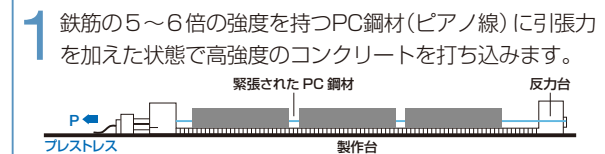
第二東名高速道路 猿田川橋(上り線) ■PC7径間連続複合トラス橋
平成21年度土木学会田中賞受賞(作品部門)

PCの製作方法と工法

プレテンション方式

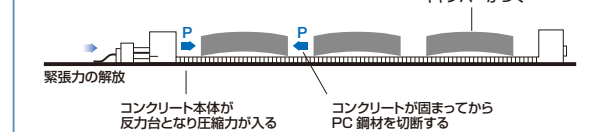
●通常は専用工場などで製作して、工事現場へ運びます。

コンクリートを打設する前にPC鋼材に引張力を加えます



2 コンクリートが固まってからPC鋼材を切断。PC鋼材に戻ろうとする力(圧縮応力)がかかります。

3 これにより引張力に強く、耐久性に優れた高強度コンクリートが出来上がります。荷重を取り除くと「復元性」により、ひび割れも戻り、繰り返しの荷重に耐えることができます。



PC工法のメリット

「軽量」で、より「荷重に強く」、「ひび割れが少なく」、「耐久性の高い」PCは、**耐震性に優れて**おり、コンクリート材料の削減や構造物の長寿命化による**省資源化にも寄与**します。PCを使用すると橋梁の支間(橋脚と橋脚の間)を大きく取ることや、同じ支間で桁高の低い橋を架けることができます。建築物の場合は、柱の少ない大スパン空間や小梁のないマンションの居室を作ることが可能になるなど、**景観や機能性の面においてもメリットの多い工法**です。



立教大学新座キャンパス ■PcaPc造

PCa(プレキャスト)工法

自社工場などの一貫生産システムで製作した土木・建築用部材を工事現場に運んで組み立てていく工法です。工事現場で「鉄筋」「型枠」を組み立て、コンクリートを「打設」「養生」といった従来の工法とは違い、気象条件影響を受けずに品質管理のできる理想的な環境で高品質の部材を安定的に生産できます。あらかじめ設計図に合わせて多くの「パーツ」を製作しておくことから、**工期の短縮も可能**になります。

PCa工法のメリット

- 気象条件に影響される工事現場ではなく、自社工場など品質管理が可能な環境で**高品質の製品を安定的に生産**できます。
- 建設現場での**木製型枠の使用が大幅に削減**されるので、地球環境に配慮することができます。
- 現場での**工期を短縮**することで、騒音を含む周辺環境への影響を**軽減**することができます。



ピー・エス・コンクリート(株) ■茨城工場

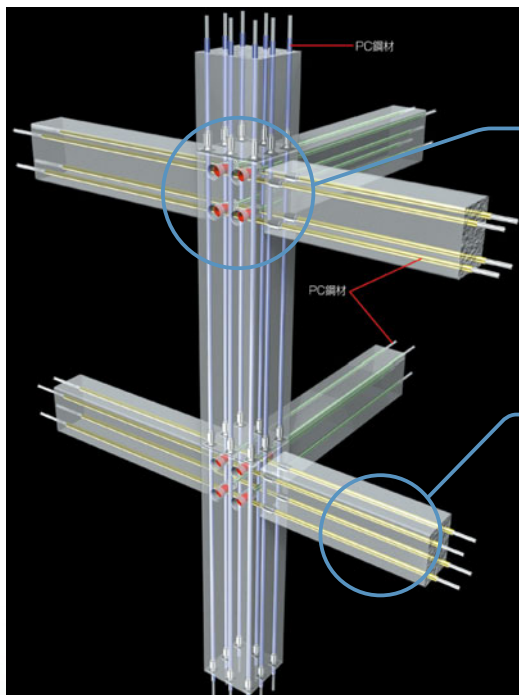
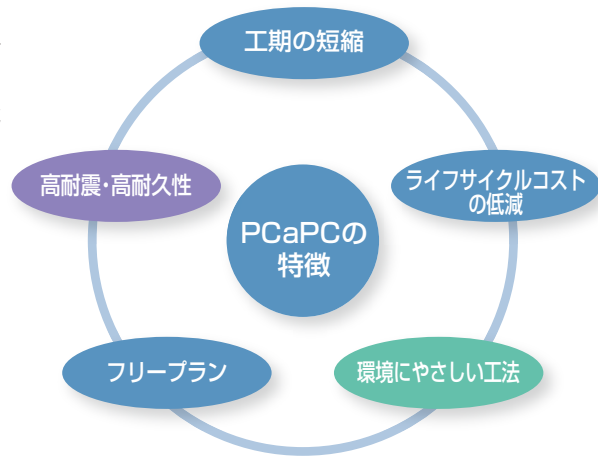
愛媛県立美術館 ■PCaPC造

ピーエス三菱のコアテクノロジー

PC(プレストレスト・コンクリート)関連技術

PCaPC(プレキャスト・プレストレスト・コンクリート)工法

ピーエス三菱では、省資源、耐久性に優れたPC技術を橋梁工事だけでなく建築工事や地下工事にも活用しています。PCを使用してPCa工法を行うPCaPC工法はそうした中の代表的な技術で、あらかじめ専用工場で作成したPCaの柱や梁部材を製作し、現場で組み立てた後に、PC鋼棒やPC鋼材にプレストレスを加え、柱と梁を一体化して建物の強度を上げます。さらに当社独自の免震システムを組み合わせることで、より高い耐震性を発揮するほか、大地震後の復元性能にも優れています。



柱



●柱は、高強度コンクリートの使用でスリムになります。柱は、下階から立ち上がっているPC鋼棒を通してプレストレスを与えることにより、下階の柱と一体化し、自立できます。

梁



●梁は、プレストレスの利用で柱の少ない大空間を作ります。PC鋼材を通してプレストレスを与え、柱と一体化します。

PCaPC工法の施工例

武庫川女子大学

構 造	PCaPC造
延床面積	7,559m ²
規 模	地上3階
所 在 地	兵庫県西高市

特徴 環境負荷の少ない工法

専用工場で作成したコンクリート部材を建築現場で組み立てるPCaPC工法は、現場での合板型枠廃材がほとんど発生せず、また生コン車などの工事車両が減少するので、騒音や粉塵も少ない、環境にやさしい工法です。

騒音 躯体・仮設工事の迷惑騒音が1/6

PCaPC工法	総量	50kdb・h	82% 減
在来工法	総量	280kdb・h	

耐震 公共施設への耐震化工事の実施
～「PCaPC外付けフレーム耐震補強工法」～

「地震防災対策特別措置法」の改正により国庫補助率が引き上げられ、地方財政措置の拡充も行われるなど、政府による「公立学校施設の耐震化」は着実に進んでいます。2008年度末の耐震化率は67.0%で、2009年度の補正予算執行後も、年度末で全体の約22%にあたる2万5,000棟が未対策のまま残ることになります。学校施設は災害時における地域住民の避難場所としての役割も果たすため、役所や病院などの公共施設の耐震化とあわせて早急な対策が望まれます。

ピーエス三菱では、毎年、学校など公共施設への耐震化工事を相当数行っていますが、この工事の主役となっているのが、既存の鉄筋コンクリート造および鉄骨コンクリート造建物の耐震補強を行う「PCaPC外付けフレーム

産業廃棄物 資源の有効活用でゴミを削減

PCaPC工法	総量	85トン	37% 減
在来工法	総量	134トン	

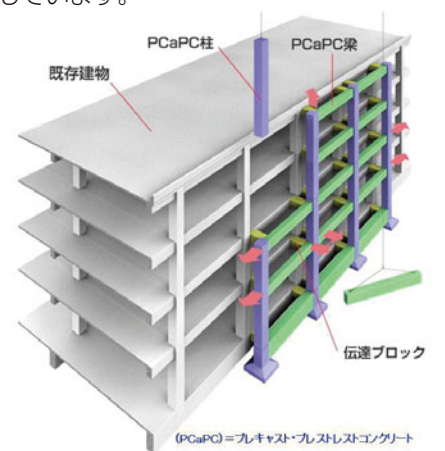
CO₂ 地球温暖化の軽減に貢献

PCaPC工法	総量	25,291kg-c	25% 減
在来工法	総量	33,551kg-c	

「PCaPC外付けフレーム耐震補強工法」です。これは、建物の外側にPCaPCの耐震補強フレームを新たに設置する工法で、建物の窓や出入り口などの基本的な構造を変えず、内部での工事も少ないため、建物を使用しながら耐震補強工事を行うことができます。本工法は、(財)日本建築防災協会の技術評価(建防災発第1798号)を取得しています。

本工法の特徴

- ▶耐震性・耐久性に優れる
- ▶建築プランに影響がない
- ▶外装面をリニューアルできる
- ▶建築内部工事の低減
- ▶工期の短縮が可能



技術研究所

技術研究所では、コンクリート分野と環境分野を軸に、技術水準の向上、品質の改善、新商品・新技術などに関する研究開発を行っています。研究部門として、コンクリート部門、建築構造部門、環境部門があります。



耐震補強工法の施工例

函館港湾合同庁舎

構 造	PCaPC造(PC躯体工事)
規 模	地上7階
所 在 地	北海道函館市



維持補修分野のテクノロジー

「壊して造る」から「補修して使う」、長寿命化の技術

ピーエス三菱では、建築構造物のリニューアル工事や橋梁の補修・補強工事（橋脚の耐震補強工事、コンクリート床版の取り換え工事、電気防食工事）など維持補修分野においても様々な技術を開発しています。海岸に面した道路や融雪剤散布を行う雪国の道路など、深刻な塩害が生じる道路橋や栈橋、ロックシェッド（落石防護の覆い）などの内部の鋼材の腐食を抑えて長寿命化を図るチタングリッド工法はピーエス三菱が業界に先駆けて導入した電気防食技術で、施工実績を重ねるとともに、さらなる改良に向けた研究開発に取り組んでいます。

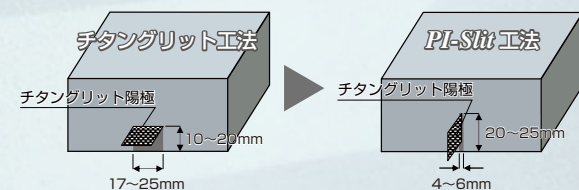
8号 阿曾・拳野洞門補修工事（ロックシェッド）
白く見える筋がチタングリッドを施した部分です。

新開発のPI-Slit（ピーアスリット）工法

当社は、中日本高速道路（株）と共同で、チタングリッド工法に改良を加えたPI-Slit工法を開発しました。

従来は、コンクリート表面に対して水平にチタングリッド陽極を設置し、断面修復材を用いて切断した溝の修復を行っていましたが、PI-Slit工法では幅4～6mm、深さ20～25mmの溝を垂直、または一定の角度を保持して切削した後に、陽極を構内部に設置します。その

後、流動性に優れたモルタルを注入（Pour）、または圧入（Inject）方式により溝を充てんします。これらにより品質や耐久性を確保したままで、陽極設置にかかわる工種が減少し、確実かつ簡単な施工が可能となります。



チタングリッド工法

コンクリート構造物における懸念材料は、コンクリート表面のひび割れ等から浸入した雨水や、塩化物イオンなどにより内部の鉄筋が腐食することで全体の耐久性が低下することです。

ピーエス三菱のチタングリッド工法は、コンクリート表面に設置したチタングリッド陽極から、鉄筋などコンクリート内部の鋼材に微弱電流を流して、腐食（さび）の原因となる電気化学反応を防止する電気防食工法です。コンクリート構造物の表面に溝を切削してチタン製の線状陽極を埋設（「水平設置」）し、鋼材腐食によるコンクリートの劣化を食い止める工法で、新設、既設構造物を問わず適用することができます。

傷んだ部分を「除去」して修復する従来の工法では、電気化学反応によるコンクリート内部の鉄筋腐食の進行を止めることはできません。この工法の優れたところは、腐食の「もと」に「治療」を加えることで、鋼材腐食の進行を完全に止めること（「さび」を取って元に戻すことはできません）。チタングリッドには約40年の耐久性があるので、少なくともその間は再劣化の心配がありません。ピーエス三菱では、橋梁、栈橋、ロックシェッドなどの構造物の防食工事にこの工法を採用し、これまでに延べ約32,000m²の施工実績を有しています。



施工前



施工後

溝切削

「垂直設置」のPI-Slit工法の場合は、溝の切削幅も少なく済むので、修復作業も含めて省力化と工期の短縮化が可能になります。



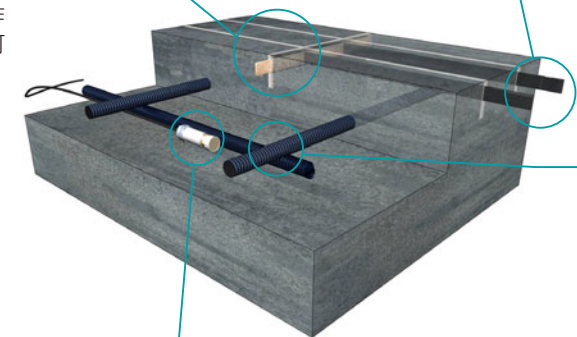
自動溝切削機

チタングリッド（綿状陽極）

表面に特殊貴金属酸化物皮膜をコーティング（40年以上の耐久性）

前処理

内部の鉄筋同士が繋がっていないと電流が伝わらないので、繋がっているかどうかを「調べて繋ぐ」作業を含みます。



モニタリング装置

防食効果を確認するためのモニタリング用照合電極を埋め込みます。



モニタリング用照合電極

直流電源装置

「ボタンひとつで電気化学測定ができる計測ユニット」や、「電子メールを使って遠隔監視できるユニット」などが搭載できる直流電源装置が設置されます。



直流電源装置

施工条件、施工規模などに依存しますが、本工法を適用することにより従来の施工法と比較して施工速度が1.5倍程度早くなり、施工費も防食面積500m²で20%程度縮減させることが可能となりました。

PI-Slit工法は、国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）にも登録していますが、「壊さずに、修理して使う」という「省資源」にもつながり、「mottainai」精神にも通じる技術として、持続可能な社会に貢献できるものと期待しています。



技術本部 技術部
開発メンテナンスグループ
青山 敏幸

2009年度における主なPC工事

福島市新庁舎東棟建設工事



PC
建築

工事内容 プレキャスト合成床版(ST版)、PC梁
規 模 RC造地上11階建 延床面積:27,774.42m²
所 在 地 福島県福島市

成田高速線 松虫川橋りょう外18箇所(PCけた)



PC
土木

鉄道橋

工事内容 PCUコンボ橋57連+T桁橋5連 橋長1,415m
所 在 地 千葉県印旛村

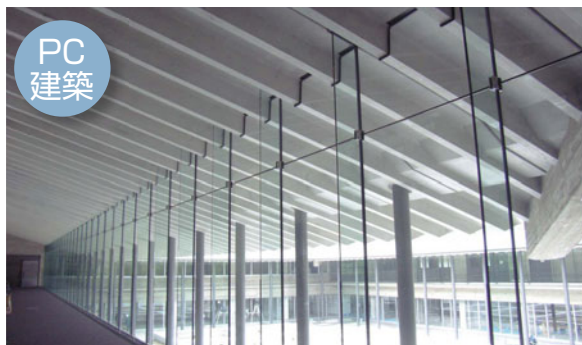
羽田D滑走路建設外工事 棧橋Ⅱ工区 PC床版設置工事



PC
土木

工事内容 PC床版3,680枚製造・架設
所 在 地 東京都大田区

九州歴史資料館本館棟新築工事



PC
建築

工事内容 プレキャスト合成床版(DT版)
規 模 RC造地上2階建 延床面積:9,483m²
所 在 地 福岡県小都市



中国自動車道
青津橋床版補修工事

九州歴史資料館本館棟
新築工事

国道9号新日野橋下部工事

ささしまライブ24
土地区画整理事業
都計道笹島線擁壁築造工事

福島市新庁舎東棟建設工事

羽田D滑走路建設外工事
棧橋Ⅱ工区
PC床版設置工事

成田高速線
松虫川橋りょう外18箇所
(PCけた)

山手学院中学校・高等学校
新校舎新築工事

紀北東道路
嵯峨谷川橋上部工事

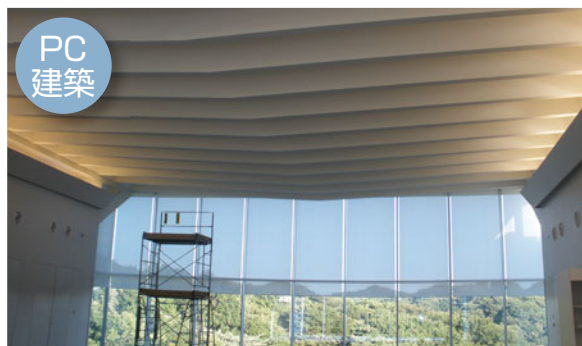
ささしまライブ24土地区画整理事業 都計道笹島線擁壁築造工事



PC
土木

工事内容 H型PC杭によるアンダーパス構築
所 在 地 名古屋市小村区

山手学院中学校・高等学校新校舎新築工事



PC
建築

工事内容 プレキャスト合成床版(ST版)
規 模 RC造地上4階建 延床面積:15,775.58m²
所 在 地 神奈川県横浜市

紀北東道路 嵯峨谷川橋上部工事



PC
土木

道路橋

工事内容 3径間連続ラーメン箱桁橋 橋長206m
所 在 地 和歌山県橋本市

国道9号新日野橋下部工事



PC
土木

工事内容 PRCウエルによる近接橋脚基礎工
所 在 地 鳥取県米子市

中国自動車道 青津橋床版補修工事



PC
土木

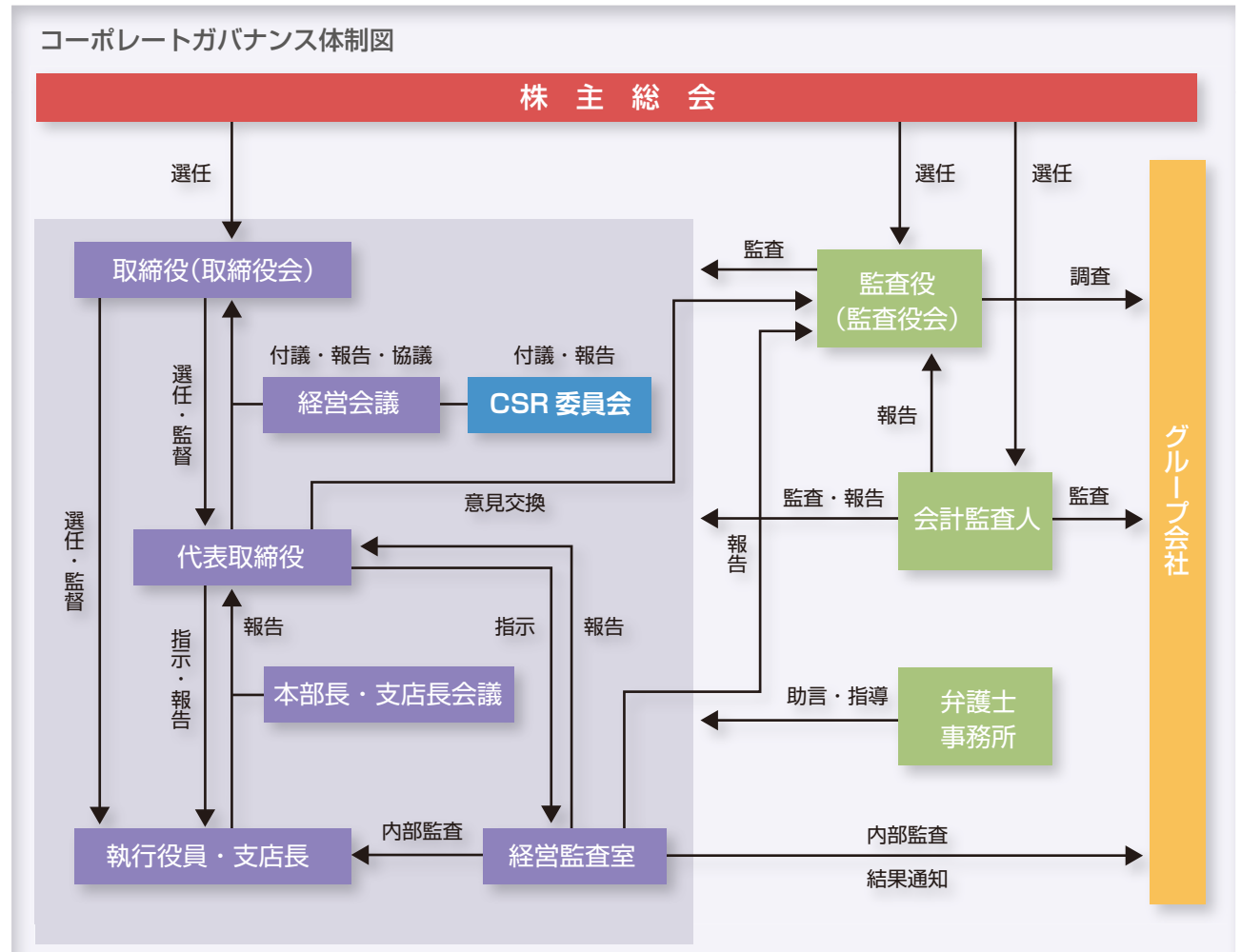
工事内容 プレキャストPC床版による床版取替1,480m²
所 在 地 広島県庄原市

ピーエス三菱のマネジメント体制

ピーエス三菱は、2006年に策定した「内部統制システム構築の基本方針」のなかで、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という経営理念のもと、「社会との調和」「法令の遵守」「企業会計の透明化」を行動指針とし、取締役、執行役員および全ての従業員がこの「経営理念と行動指針」を遵守、実践して企業倫理の確立に取り組み、公正な企業活動を通じて社会に貢献するとともに、創造的で清新なる企業風土を築くこと、としています。当社では、こうした企業目標に一步でも近づけていくためのマネジメント体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス

企業価値の継続的な向上を図るとともに、高い企業倫理を確立し、ステークホルダーからの信頼を獲得するため、当社ではコーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の最重要課題とし、適正な牽制機能を通じて、意思決定の公正性、透明性、的確性などの向上に努めるとともに、内部統制システムを確立し、CSR活動を通じてリスクマネジメントおよびコンプライアンスの徹底に努めることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としています。



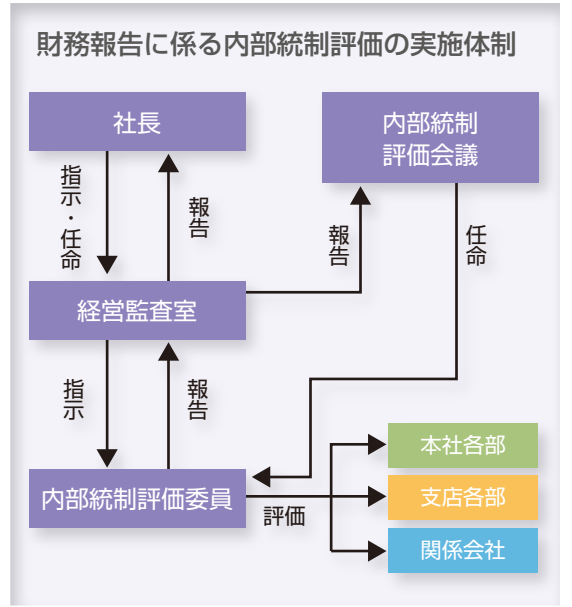
経営の意思決定と業務執行体制

取締役会は、経営の最高意思決定機関として、法令や定款に定められた事項や当社の経営に関わる重要な事項についての意思決定を行うとともに、代表取締役の選任と適正な業務執行の監督を行います。当社では、より迅速な意思決定や監督機能の強化などを実現するため、2005年6月より執行役員制度を導入し、業務執行権限を執行役員に委嘱して執行責任を明確化する一方で、取締役会の経営機能を強化し、コーポレートガバナンスの一層の充実を図っています。2009年4月1日現在における当社の取締役会は10名の取締役(3名の社外取締役を含む)と3名の監査役で構成されており、19名の執行役員が選出されています。

また当社では、業務執行の決定が適切かつ機動的に行われるよう、常勤の取締役で構成する経営会議を設置し、原則月2回、全社および当社グループ全体の経営に係わる戦略、基本方針その他経営全般に関する重要事項の審議を行っています。加えて、代表取締役あるいは、取締役会の意思決定を適法・適正かつ効率的に行うために、取締役会付議事項について事前に慎重な審議を行い、代表取締役および取締役会の意思決定をサポートしています。さらに当社では、社長・本部長・執行役員・支店長で構成する本部長・支店長会議を設置して、原則月1回、各本部・支店による業績評価と改善策などの報告をもとに、具体的な施策の一体的実施を協議するほか、経営に係わる戦略・基本方針・その他経営全般に関する重要事項の周知徹底を図っています。

監査・監督体制

当社は監査役会設置会社であり、監査役会は2名の社外監査役を含む3名の監査役によって構成されています。業務執行部門から独立した社長直属の部署で、全社的な内部統制の整備・運用状況を監査する経営監査室と連携して、年度内部監査計画を協議するとともに、内部監査結果および指摘・提言事項などについて意見交換を行い、業務執行内容の全般にわたって綿密で厳正な監査を行っています。また、監査役は取締役会をはじめ重要な会議に出席し、取締役の職務執行について監視を行っています。当社では、監査役監査基準に準拠し、2007年8月より監査役付を1名配置し、監査職務を補助する体制を整えています。



独立役員の選任

東京証券取引所の有価証券上場規程等の一部改正に伴い、当社は一般株主保護のため、独立役員を1名以上確保することが義務づけられました。当社は2010年3月末に独立役員として、監査役のうち社外監査役である2名を選任いたしております。

内部統制システム

2006年5月の会社法の施行にともない、ピーエス三菱では同年5月の取締役会で「内部統制システム構築の基本方針」を決議してその内容を開示し、CSR基本規定などの各種規定や執行役員制度を含む各種体制の導入などを積極的に行い、同年6月公布の金融商品取引法(J-SOX法)への対応など、必要に応じた是正を実施しながら、より実効性の高い内部統制システムを整備してきました。

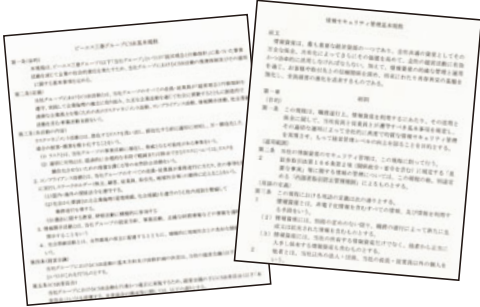
当社では、内部監査部門が内部統制の整備・運用面を評価して「金融商品取引法財務報告内部統制評価会議」に報告。不備がないことを確認したうえで社長に報告し、監査法人による内部統制の監査証明を受けています。監査法人および当社監査に従事する監査法人の業務執行社員と当社の間に特別の利害関係はなく、また、監査法人は業務執行社員について当社の会計監査に一定の期間を超えて関与することのないよう特別な配慮を行っています。(会計監査人:有限責任あずさ監査法人)

内部統制システム構築の基本方針

- ① 取締役、執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制を構築(⇒p.16「意思決定と業務執行体制の整備」)
- ② 取締役の職務執行に係わる情報の保存及び管理に関する体制を構築
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制を構築
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制を構築(⇒p.16「執行役員制度の導入」「経営会議」「本部長・支店長会議」など)
- ⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適性を確保するための体制を構築
- ⑥ 監査役の職務の執行のための必要な体制を構築(⇒p.16「監査役は取締役会をはじめ重要な会議に出席」「監査役付を1名配置し、監査職務を補助」「経営監査室と連携」など)



②情報の保存および管理



③左:ピーエス三菱グループCSR基本規程
右:情報セキュリティ管理基本規程

2009年度財務報告に係る内部統制は「有効」

当社では2010年3月31日を基準日とした財務報告に係る内部統制の評価を実施し、監査法人の監査を受け、株主および投資関係者をはじめとするステークホルダーに「当社の内部統制は有効である」と記載した内部統制報告書を本年6月に公表しました。

コンプライアンスとリスクマネジメント

コンプライアンスとリスクマネジメントは、ピーエス三菱の「CSR基本活動方針」でも「2本の柱」としている重要な取り組みで、当社における「CSRの基盤」です。当社では、とくに、CSRの取り組みがスタートした2007年度より、「コンプライアンスは全てに優先する」とのトップメッセージのもと、コンプライアンスをCSR活動の最上位に位置づけるとともに、重要なリスクを洗い出して排除または低減していく全体的なリスクマネジメントシステムの中に組み込み、PDCAサイクルを通して、一切の不正・違法行為を許さず、潜在化もさせない「コンプライアンスの徹底」に努めています。

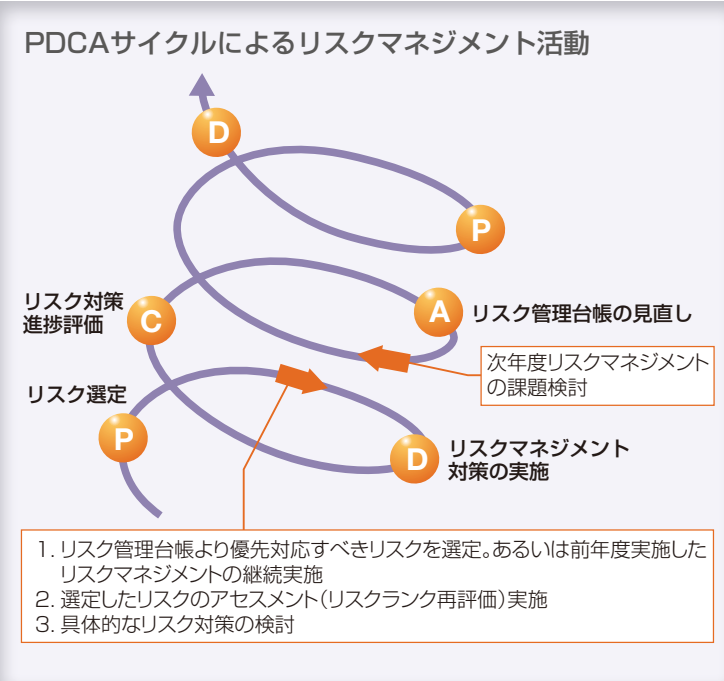
リスクマネジメントシステム

当社ではビジネスリスクについて、発生確率と被害規模から総合的に判断してリスク管理台帳を作成し、優先的に取り組むべきリスクを選定して優先順位(リスクランク)を決定。社内イントラネットを通して、経営のトップから最前線の現場派遣職員までが閲覧できるようにして、一括管理されたリスクの共有化を図っています。選定したリスクについては年度末ごとに、新たに見つかった課題などの検討とともに再評価してリスク対策を更新し、新年度からスタートさせます。リスクの選定にあたっては、各部署から選出された社員が「CSRサポーター」として加わり、「実情」に即した、より効果的なリスクマネジメントの構築をめざしています。

2009年度は、「全現場黒字化実現に向けた“見える化”によるリスク対策の徹底」「社会的信用失墜による経営危機回避の対応強化」「実用的なリスク管理に基づく有効なPDCAサイクルの励行」「内部通報制度によるリスク未然防止への早期対応」という4つの重点目標をリスクマネジメント活動の年度目標に掲げ、それぞれの具体的な対策とともに全社的な取り組みを行いました。



※3月5日、CSRへの全社的な意識が浸透することを目的に「CSRサポーター研修」を実施(2008年より毎年実施)。



2009年度におけるコンプライアンスに関するおもな取り組み

コンプライアンス研修

各種法令に対するより詳しい認識が求められることから、役員から従業員までを対象に、業務内容や役職、階層に応じた研修会などの学習機会を数多く設けています。

営業担当者向けコンプライアンス研修会



開催月日:7月14日
受講者数:212名
内容:営業担当者は必修。主に独占禁止法や契約に関する知識と意識の向上を図りました。(2.0h)

基本的に本社会議室において開催される各研修会の模様は「パソコン会議システム」により、現場を除く全国の事業所に同時配信されています。

役員向けコンプライアンス研修会



開催月日:8月28日
受講者数:27名
内容:役員を対象とし、企業コンプライアンスの重要性や注意点などの再確認を図りました。(2.0h)

合同(第6回)コンプライアンス研修会



開催月日:10月7日
受講者数:154名
内容:全役職員対象。当社顧問弁護士を講師とし、業務全般におけるコンプライアンス意識の向上を図りました。(2.0h)

人権研修会



開催月日:12月17日
受講者数:130名
内容:主にパワハラ・セクハラの未然防止をテーマとした。「差別のない職場環境」に関する講義が行われました。(2.0h)

※受講者数:全国各地で受講した従業員の総数

企業倫理月間

2008年度より、毎年10月を当社の「企業倫理月間」と定め、下記の様な取り組みを通して役員、従業員の意識向上を図っています。コンプライアンスブック理解度確認テストe-ラーニングは、10月の期間内での未修了者に対しては、再受講の機会を設け、最終的な修了者は対象者の95%でした。

コンプライアンス契約書の提出は今年度から全従業員に提出を義務付け、各人速やかに提出しました。また、グループにおけるCSR推進体制の確立に向け、関係会社でも同様の取り組みを開始し、コンプライアンス意識の向上に努めました。

■合同コンプライアンス研修会を実施

■コンプライアンスブック理解度確認テストe-ラーニングを実施

当社並びに、グループ会社に勤務する役員、従業員を対象に実施。「ピーエス三菱グループのためのコンプライアンスブック」の理解度を確認するテストで、合格点に達するまで修了できないシステムとなっております。

▶2009年度は1,700名を対象に実施して、**1,619名**の理解度を確認

■全従業員から「コンプライアンス誓約書」の提出

▶コンプライアンス誓約書の提出 **1,298名**

■営業担当者より「談合不関与誓約書」の提出

▶談合不関与誓約書の提出 **229名**

「CSRなんでも相談室」の「間口」が広がりました。

社員のコンプライアンスに抵触する行為は、重大な経営リスクとなることから、内部通報制度を通じて潜在するリスクの早期発見と、適切な対処に努めています。当社では、「CSRなんでも相談室運用規程」を作成して相談者・通報者の「守秘義務」と「通報者保護」を明確に規定したうえで、2007年より、イントラネット上に「CSRなんでも相談室」を設置。社外通報窓口として弁護士事務所にも「相談室」を設けていますが、2009年度より「間口」を広げて、当社グループに勤務する全ての従業員が利用できるように規

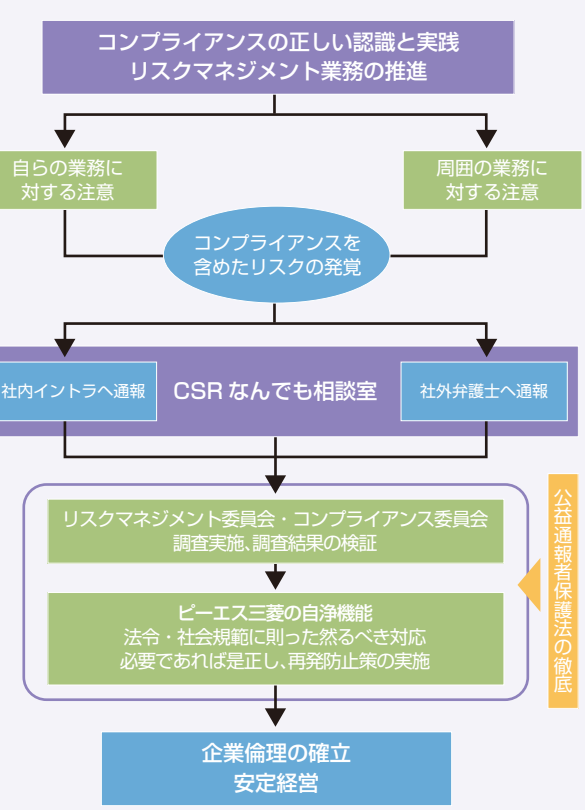


「CSRなんでも相談室」の運用規程

1. 当社グループ各社に勤務する社員、契約社員、派遣社員の通報・相談も受け付ける。
2. 相談・通報者の「守秘義務」と「通報者保護」を最優先する。
3. 当社グループに勤務する全ての方は、違法行為を見たらすぐに通報を。

程を改定しました。2010年3月に実施したCSRアンケートでは、グループ社員の認知度も83.6%に上昇しています(前年度77%)。

内部通報制度



公正取引委員会からの行政処分について

当社は、国土交通省関東地方整備局および同近畿地方整備局並びに福島県が発注するプレストレスト・コンクリートによる橋梁の新設工事の入札に関し、2004年10月15日付で公正取引委員会から、独占禁止法の定めに基づく排除勧告を受けましたが、2010年9月21日、同委員会から上記3件の排除措置命令を受けました。お客様・株主様をはじめ、関係者の皆様方に多大なるご心

配をおかけしましたことを、謹んで深くお詫び申し上げます。当社はこれまでも、法令および企業倫理の遵守に取り組んでまいりましたが、今後は当社グループのコンプライアンス体制の取り組みをさらに徹底・強化し、ステークホルダーの皆様のご信頼にお応えすべく全力を挙げてまいります。皆様におかれましては、これからも引き続きましてご指導・ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2009年度におけるリスクマネジメントの取り組み

個人情報漏洩リスクと情報セキュリティの徹底

ピーエス三菱では、「情報資産を重要な経営資源の一つと位置付け、全社共通の資産として万全な保全、共有化によってその価値を高め、事業活動に有効かつ効率的に活用する」ことを主旨とする「情報セキュリティ管理基本規程」を策定しています。また、具体的な管理方法として「情報セキュリティ運用ガイドライン」を定め、ピーエス三菱グループネットワークにおける情報セキュリティを確保し、インターネットや専用回線を通じたネッ

トワーク網に接続するIT機器全般の標準化・運用・管理・保守の徹底を図っています。オフィスセキュリティ対策(工事作業所の情報漏洩防止策)として、協力業者も含めたセキュリティ管理体制の構築や事務所入退室の管理、パソコンに保存する個人情報など重要データのアクセス用パスワードの設定と定期的な変更、重要文書および記憶媒体などの保管・廃棄などの取り組みを強化しています。

BCP(事業継続計画)の整備と拡充

ピーエス三菱では、大地震など大規模災害時に社員や家族の安全を確保・確認し、業務の早期復旧を実現するためのBCPを策定しています。当社の生産拠点の多くは工事作業所であるため、企業としての事業継続リスクはいくら分散される一方で、点在する全ての工事作業所の被害状況を早期に把握することは困難を極めます。したがって当社のBCPにおいては、社内通信ネットワークの重要性が非常に高く、保有するネットワーク機能の維持が最優先となるため、首都圏直下型の大規模地震災害を鑑み、当社のサーバーなどをデータセンターに移設するなどしてリスクの回避・低減を行っています。

当社では2007年より、BCPの一環として、対象となる

PSM-BCP基本方針

- ①従業員とその家族の安否確認
- ②労働力の確保と自社事業の早期回復
- ③地域社会のインフラ復旧工事への積極参加
- ④顧客の安全と財産の保全

支店・営業所などを東西に分けて安否報告訓練を実施してきましたが、本来、日本国内において震度6以上の地震災害が起きた際には全ての対象者が安否報告を行うことが義務付けられていることから、2009年度は全国一斉で訓練を実施しました。今後は本訓練に加え、インフラ復旧のための下請業者をはじめとする労働力確保を目的としたネットワークの構築も図っていく予定です。

安否報告訓練結果(2010年2月実施)

訓練実施者

訓練実施者 746名(54.9%)

(内訳)

携帯電話Web報告 550名
パソコンWeb報告 116名
電話ガイダンス報告 80名

訓練未実施者 613名(45.1%)

訓練結果の考察

7時間という短い訓練期間を設定し、休日中の安否報告に対する対象者意識の把握を目的に実施しましたが、訓練の実施率は2008年度の実施率(90%超)を大幅に下回る54.9%という残念な結果となりました。今回は休日実施となったため会社のパソコンからの安否報告ができなかったこと、対象者が拡大されたにもかかわらず周知が不十分だったことなどが原因としてあげられます。自宅にインターネット環境があってもメールを受信できなかった方が多数存在しており、未だ「安否情報システム」を登録していなかったり、あるいは携帯電話のメールフィルター未設定のため受信拒否となっている方が多数存在することも判明したことから、個人情報の登録データの再確認もふくめて、参加者に対して再度、受信できる環境の整備を促しました。

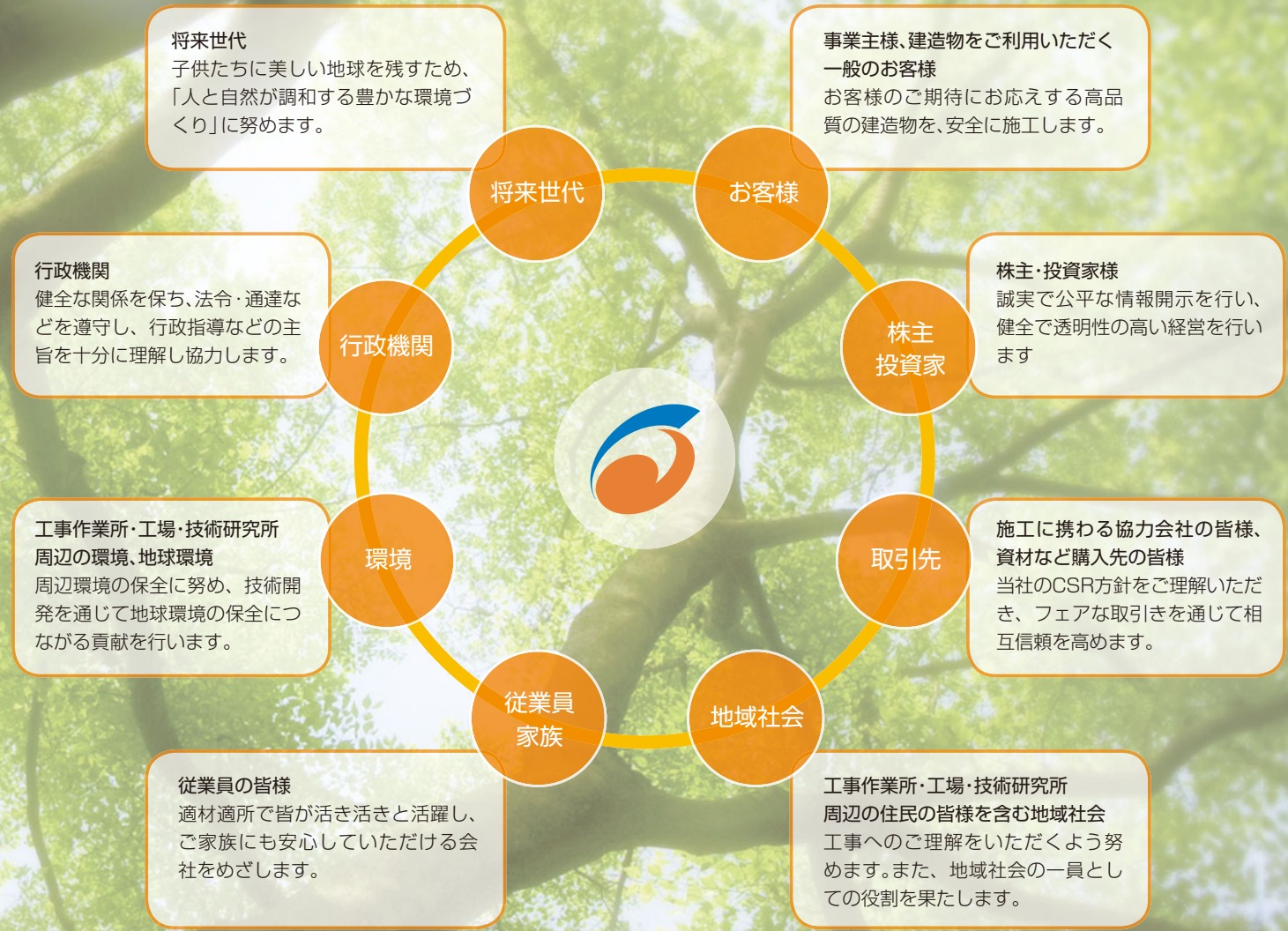
新型インフルエンザへの対応

当社では、2009年5月に世界的に流行した豚インフルエンザ(A/H1N1型)が日本に上陸した際は、即時に対策本部を設置し、マスクの配布や消毒薬の配備などを行うとともに、感染者の把握と自宅待機の徹底などを周知しました。毎年、秋以降の流行が予想されることから、周到な事前準備を進めるとともに、社内告知などを通じて社

員各自の自己管理の徹底を呼び掛けています。鳥インフルエンザ(H5N1型)は、非常に毒性が強く、人に感染した場合も約6割の感染者を死に至らしめることから、重大なビジネスリスクであると認識し、当社では、新型インフルエンザに対する事業継続計画の早期策定も検討しています。

Coeproduction with Stakeholders

ステークホルダーとの協働



お客様とともに、そして地域とともに

基本的な考え方

私たちのお客様は、発注者であり、公園や橋などの建設生産物を利用するユーザーの皆様です。そうしたお客様のために、堅牢で美しい建造物をつくり上げ、重要な社会基盤の整備に持てる力を発揮することは、私たち建設業者の「本分」であり、「誇り」でもあります。ピーエス三菱では、工事説明会や現場見学会などお客様と直接お話ができる機会を設け、万全の環境・安全を提供するとともに、モノづくりの「心」もお伝えして、「ピーエス三菱の工事」に対するご理解をお願いしています。

地域とのより良い関係をめざして

工事現場を公開する「現場見学会」を実施しています

ピーエス三菱では、当社の土木・建築工事の現場を、事業主様のほか、様々な方々に広く公開しています。工事にご迷惑をおかけする現場近隣の地域住民の皆様をはじめ、町内会や老人会など地域の団体、あるいはコンサルタントや学会関係などの専門家、興味をお持ちの学生の皆さんなどを対象に現場見学会を実施し、当社ならではのPC技術について関心を持っていただけるような楽しい見学会を企画しています。体験学習など、地域で実施される教育関連行事にも積極的に参加しています。

週報から

週報は現場所長が工事の進捗状況について、毎週、社内イントラネットを通じて役員に報告するもので、いわば現場と経営陣とをつなぐホットラインとも言えます。

府道山東大江線バイパス「精華橋」工事作業所(京都府福知山市)

登録者:大阪支店/土木工部部/土木工事グループ:清水 啓史

先週、桁架設作業が無事完了しました。

現場近隣に全校生徒67名の小さな小学校があります。せっかくの機会なので、架設作業中の見学会を開催しました。(子供たちに、長いトレーラー、重たいPC桁、おっきなクレーン車を見せてあげ

て、ものづくりに興味を持ってもらい、あわよくば、僕も橋を造りたいという将来の選択肢の1つになってもらえればいいなと思って行いました。)

…児童たちは現場が通学路に面していることから、橋を造っている工事現場ということはうすうす分かっていたようで、小学校で私の姿を見るなり、「橋、いつ架かるの?」「渡るの楽しみ!」「いつ通れるようになるの?」と声を掛けられ、私はびっくりしました。子供たちが初対面の大人にこんなに気やすく話しかけると、橋を造る工事現場にすごく興味を持っていてくれたこと。橋が架かって通れるようになることをすごく楽しみにしていること、などを知り本当に驚きました。

架設作業当日も、「いろんな役割(仕事)をする車」という授業で、校長先生が希望する2年生の児童を連れてきてくださいました。また、小学生だけでなく、近隣住民の方々も来られて「ご苦労様ですね」「橋ができると便利になるわ」などと、我々にねぎらいの言葉をかけていただきました。

私は、この仕事に就いて13年目になりますが、地元住民の方から、こんなふうに声を掛けられた覚えがなく、どちらかというと逆のパターンが多かったです。そのため、「できるだけめま事が起こらないように」と、地元の方々との接触に関しても消極的でしたが、この現場で、この見学会で、考え方が180度変わりました。この仕事をしていて良かったとあらためて思いました。

役員室:勝木 恒男

社長の勝木です。丁寧な報告ありがとうございました。小学生を含めた地元との交流での実感が伝わってきました。CSR(企業の社会的責任)の観点からも大変役に立っていると思います。この調子で頑張ってください。ご安全に。



見学会では、橋面に「将来の夢」を描いてもらうペインティングイベントも行いました。



校庭にて事前に説明を行いました。



児童との記念撮影

「皆様に広く、工事現場を公開しています」

「ひらかれた工事作業所」への取り組みを推進しています

当社では、工事にともなう騒音や振動、粉塵などの低減に極力努めていますが、それでも地域住民の方々の生活環境に何らかの影響が及ぶのを避けることは困難です。工事作業所周辺住民の皆様には、工事開始にともなう「工事説明会」を実施したり、「工事のお知らせ」などのチラシを配布するなどして、工事への理解をいただけるよう努めています。また、工事作業所に現場内が見えるような仮囲いの設置や週間予定表を掲示するほか、「ひらかれた工事作業所」をめざす取り組みを行っています。



住民説明会

地域社会への貢献

全国の工事作業所や工場、事業所では、地域で開催される祭りなどの行事や、ボランティア活動、清掃活動などにも積極的に協賛・参加しています。



積極的な交流が評価され、感謝状をいただきました(紀北東道路・名手下跨道橋工事)
夏祭りや秋祭りへの参加などを通じて地域住民の皆様と積極的に交流したほか、地域の安全確保や発展のために貢献したことを高く評価され、町内会や自治区から感謝状を贈られました。



地域の清掃活動に参加(樋野口取水施設撤去工事)
第30回江戸川クリーン大作戦(国交省江戸川河川事務所および沿川13市町主催)に参加し、地域住民の皆様といっしょに清掃活動に汗を流しました。



地域の清掃活動に参加(本社・東京支店)
2007年より、地域住民を中心に毎月第2水曜日に行われる清掃活動[まちかどクリーンデー(東京都中央区主催)]に毎回20~30名の従業員がボランティア活動の一環として参加しています。

各地の社会貢献(例)

	活動内容		活動内容
東京支店	三浦学苑野球場横須賀周辺の不法投棄ゴミ撤去や清掃	大阪支店	駿河湾地震による東名高速道路被災に対する復旧作業を実施
名古屋支店	町内の春祭りに記念品を贈呈	ピーエス・コンクリート茨城工場	行方市主催の七夕まつりの飾り付けに協力
ピーエス・コンクリート北上工場	冬場の近隣アパートの除雪作業を実施	ピーエス・コンクリート水島工場	水島港祭りにおいて青少年育成パトロール活動に参加
ピーエス・コンクリート滋賀工場	地域美化活動である「びわ湖の日清掃」に参加	ピーエスケー 関根材センター	秦野丹沢祭り(神奈川県秦野市)協賛

人づくりの社会貢献

「ものづくりは人づくりから」

「コンクリートから人へ」の公共工事無用論は、かつて「昼間のパパは格好いい」という唄にも表現されて支持された建設産業に従事する人たちのプライドを否定し、若年層の業界離れを進め、高齢化の問題もともなう、このままでは将来を担う技術者・技能者がいなくなってしまうのではないかという危惧に拍車をかけています。

当社は戦後の国土の復興を担ったプレストレスト・コンクリート建設業のリーディングカンパニーとしての「良心とプライド」をもって、技術者・技能者の育成に努

めています。社団法人日本建設業団体連合会の任意団体である社会貢献活動協議会が平成21年11月から実施している「教育実施支援」のような、建設産業の発展や社会全体に貢献する、社会的意義の高い取り組みには、今後も積極的に参加・協力してまいります。

※社団法人日本建設業団体連合会では平成21年4月に「建設技能者の人材確保・育成に関する提言」と「基本方針」を発表し、様々な取り組みを行っています。



法務・CSR推進部長
松尾 潔

あまり知られていなかった(?)所長という仕事

工事現場の日々の活動こそがCSR。
「近隣への細やかな配慮」の積み重ねで、
皆様から信頼されるピーエス三菱に

学校法人
三浦学苑高等学校
佐原グラウンド工事
施工期間
2009年2月～2010年1月

ピーエス三菱の工事現場には、監督責任者である「所長」がいます。そして所長は、「安全第一」で、高品質の構造物を、予算どおりに、予定した工期内に竣工させるという基本的な使命と責任を担っています。今回は、ピーエス三菱のコアビジネスである「工事」について、よりよく理解していただくため、そうした所長の仕事のなかでも、一般に、あまり知られていないのではと思われる「近隣関係への配慮」、という部分に焦点をあてて、実例をもとに少し詳しくご紹介いたします。

「甲子園規模」の野球グラウンド建設

神奈川県横須賀市にある三浦学苑様は1929年に設立。2009年に創立80周年を迎えた歴史と伝統のある学校で、80周年記念事業の一環として校舎のリニューアルやグラウンド整備などが行われています。ピーエス三菱が請負い2010年1月に竣工した「佐原グラウンド(横須賀市佐原4丁目)」の新築工事でも、この事業の一環として行われたもので、ミーティングが行われる広い会議室や部室などが入る管理棟や2面のオムニコートも併せての新築プロジェクトとなりました。

三浦学苑のプロジェクトは、管理棟の建設が並行して行われることから、当社の建築部門が担当することとなりました。本格的な野球場のスタンド部のPC建築などを部分的に施工することはよくありますが、練習グラウンドとは言え、両翼90m、センターまでの距離が120mという、いわば「甲子園規模」の野球場を建築部門が施工するというのは稀なケースです。とくに今回のプロジェクトで所長を務めることになった建築工事部の大上にとっては初めての経験となりました。

「腐葉土の再利用」ありきの建築プラン

佐原グラウンドの敷地は、かつて採石場だった場所で、すり鉢状の採石跡を埋め戻した後がうっそうとした森になっていた場所でした。非常に硬い泥岩層の上を腐葉土が覆っているという状態で、したがって、この工事ではまず伐採工事を行い、腐葉土の表土を削り取るという準備工事が必要になりました。

ここで学校側に示したのは、掘り返した腐葉土を搬出せずに、これをグラウンドの斜面に盛り上げて緑地にするというプラン

でした。搬出された土は新たな建設副産物となるうえ、搬送に使われるダンプカーが増えることで、近隣の住民の皆さんの不安も増します。

大上所長がこのプロジェクトにおいて常に重視したのは、「安全第一」の姿勢と、「近隣住民への配慮」。「安全第一」と、「近隣住民への配慮」に関してはやりすぎということはない。些細なことでも、気がついたことや気になる点については、徹底的にクリアしておくというのが信条です。この工事においても、資材の集中搬入を避け、非効率的でもあえて分散搬入を行うことで、一度に道路を走るダンプカーの台数を制限し、搬入時には事前に散水車を導入し砂埃をおさえ、ダンプカーには時速20kmの制限速度の厳守を徹底させるなど、近隣住民に対し徹底的な配慮を行っています。その大上所長が最初に提案したのが、「腐葉土の有効活用」というプランでした。工事を行うのはピーエス三菱ですが、住民の皆さんにご迷惑がかかれば、事業主様もまたご批判の対象となり、ご迷惑をおかけすることになります。とくに今回の事業主様が教育機関であることを考えると、より周到な計画と配慮が求められるのは当然のことでした。

「腐葉土の有効活用」というプランは事業主様のご賛同を得て横須賀市に提出され、行政側のご理解も得て許可をいただくことができました。緑地化にあたっては、植栽に関わる横須賀市の条例があり、また一部に県の管轄となる森林法の適用箇所があったりと、この提案によって仕事は増えることになりましたが、お客様や、近隣住民、周辺環境など、ステークホルダーの利益を考えて、これを「余計なこと」と考えず、「良かれと思う事を躊躇なく実行する」という姿勢こそが、ひいては安全や品質に対するこだわりにもつながるものと私たちは考えます。

偶然の出会いから貴重な情報を

自然の土を活かしたクレイ塗装の「佐原グラウンド」は2010年1月に完成し、3月には練習試合も行われました。グラウンドは何と言っても「水はけが命」ですが、グラウンド用の盛り土の下には水が浸透しない泥岩層があることから、佐原グラウンドには、土の下に貯まった水を水路へ誘導する排水計画もきちんと行われています。この排水については、大上所長に貴重な情報をもたらした人物の存在がありました。

その方は、工事が始まる前に、現場近くの会員制テニスコートまでご挨拶に行った際に出会ったメインテナンスの方で、以前採石場で重機のオペレーションを担当されていたとのことでしたが、当時のお話をもろもろうかがっている中で、採石場には現場も把握していない「横坑」があり、現在もそこから水路に水が流れ出していることがわかりました。情報をもとに早速教えられた場所に行ってみると、そこには確かに古い坑道があり、調査してみると長年の間に蓄積した泥の間から水が流れ出している事がわかりました。埋めてしまっても問題はないものと思われましたが、出口を塞がれた水によって予期しない影響が出る可能性も否定できないため、横須賀市の河川課と相談して許可をいただき、横坑を補修して水路に流すことになりました。

さまざまな方々と積極的にコミュニケーションを図るのも重要な「所長の仕事」

工事現場には、工事関係者以外のお客様もたくさんお見えになります。施工期間の約1年の間に、近隣の住民の方々をはじめ、さまざまなお客様がいらっしゃいました。8月末には三浦地区中学校

の校長会20校の校長先生が、9月には公立中学校の校長先生方が建設中の工事現場に見学に来られました。三浦学苑の学校説明会の帰りに、「野球部志望」の中学生が父兄の方々と一緒に来られたり、かつて採石場で働かれていたOBの方々が昔を懐かしんでお見えになることもありました。そうした方々からの質問に丁寧に答ええることで工事にたいするご理解を深めていただき、ピーエス三菱という会社にたいする信頼感を高めていただくことも、所長である大上の仕事です。先ほどの例のように、たとえ稀であっても、そうしたコミュニケーションを通じて、工事の進行上、責任者として知っておくべき重要な情報ももたらされることもあります。

当初は練習グラウンドとして建設された佐原グラウンドは、「質の高さ」と「甲子園仕様」の広さとが高く評価されて、2010年度より地区予選の球場として使用されることになりました。その後、早朝まで雨が降って他のグラウンドがほとんど使えなかった時も「佐原グラウンドは使えた」という話を漏れ聞いて、大上所長は嬉しさとともに、ようやく「ひと仕事を終えた」という安堵感を味わったと言います。



東京支店 建築工事部 作業所長
大上 寛



- ①腐葉土を利用した箇所(緑色の部分)
- ②「(株)リフレックス」様には、ご厚意により、グラウンドへのアプローチとなる斜路が完成するまで、工事現場に隣接する駐車場の一部をお借りして工事を進めさせていただきました。
- ③敷地の土手を削って敷設した約10mの斜路は、今回の工事では最も高い技術を要した箇所。ボックス状のコンクリートの既製品を現場で積み重ね、中の空洞にコンクリートを詰め込んだものを擁壁とすることで工期の短縮につながりました。
- ④グラウンド竣工後のアプローチとなる道路の片側車線が不法廃棄の自動車に占拠されており、せっかくグラウンドが完成しても球児たちを乗せたバスが入っていけないという深刻な問題もありました。
- ⑤横須賀市に撤去勧告の張り紙を要請したり、浦賀警察署に事情説明に行ったりという苦労が実って、ようやく(横須賀市が)撤去。見違えるほど「すっきり」した道路。
- ⑥車が遮蔽物となり、フェンスの向こうがゴミ捨て場に
- ⑦捨てられていたゴミもボランティアで回収。近隣の方々が気味悪がって近づかなかった場所が、すっかり明るくなり、見通しもよくなって「ゴミを捨てにくい環境」に。
- ⑧佐原グラウンド入り口
- ⑨工事現場の人員が総出で行く、週に一度の「一斉清掃」の際には、水路のゴミ集めや使用道路の清掃なども。

協力会社とともに

基本的な考え方

たとえば家を一軒建てるにも、本体工事以外に、水道工事や電気工事など付随する工事があり、大工の棟梁は専門技術を持った職人(協力会社)の助けを借ります。総合建設業は、ひとつの工事に関わるこうした数多くの業種・業態の協力会社をまとめ上げる統合産業といえます。ピーエス三菱では、協力会社に対して、CSR面も含めた当社の「安全・品質」基準への徹底対応をお願いしつつ、「こだわりのモノづくり」に対して同じ「哲学」を共有する協力会社とともに、「総合力」の強化に努めています。

労働安全衛生への取り組み

「ゼロ災害」を目指して取り組みを強化しています

ピーエス三菱では、労働災害・事故が発生した場合には「災害調査委員会」を設置し、事故の要因分析や防止対策を立案し、災害予防に取り組んでいます。毎年2月に中央安全衛生会議を開催し、年度安全衛生計画を決定するとともに、安全管理重点実施項目を決定しています。また、安全対策の徹底を図り、継続的に要因分析や防止対策、予防対策などのPDCAを回すように取り組んでいます。さらに、協力会社には安全協議会などで災害事例を活用し、同様な災害の防止対策を検討してもらい、一体となって活動しています。

安全に働くこと、健康に暮らすことは働く人とその家族にとって何よりも大切なことであるという認識のもと、「死亡災害ゼロ」「ゼロ災害」をめざして取り組みを強化しています。次の時代を先導する企業としての第一歩を踏み出すために、全員で力を合わせて、確実に日常業務を遂行し、それぞれの目標に向かって積極的な活動を行っています。

2009年度 安全衛生計画

当社では毎年、安全衛生計画を策定し、全社一丸となって目標達成を目指しています。また、役員による現場の視察・見回りを定期的に行うなど、安全衛生への取り組みの徹底を実践しています。

- 基本方針

「安全最優先の企業風土を確立し、無災害を達成する」

●安全衛生方針

 1. 労働安全衛生関係法規、社内安全衛生管理規程およびその他基準などに定める事項を遵守し、安全衛生水準の一層の向上を図る。
 2. 労働安全衛生マネジメントシステムによる安全衛生活動を事業展開の中で重要業務に位置づけ、これによる措置を適切に実施する。
 3. 労働安全衛生マネジメントシステムによる安全衛生活動の推進を効果的に実施するため、当社社員および作業員を含む協力会社など全員の協力の下に、組織的に実施体制を整備し、一体となって活動を行う。

●安全衛生目標

 - ①死亡災害“0”、度数率0.7以下
- ②墜落・転落災害の絶滅
 - ③挟まれ・巻き込まれ災害の絶滅

●重点実施項目

 - ①墜落・転落災害防止対策
 - ②挟まれ・巻き込まれ災害防止対策
 - ③ヒューマンエラー防止対策
 - ④リスクアセスメント・安全審査の強化
 - ⑤労働安全衛生マネジメントシステムの展開
 - ⑥建設機械関連災害防止対策
 - ⑦協力会社の送り出し教育徹底と自主管理の要請強化
 - ⑧より良い職場環境づくりの推進強化
 - ⑨高齢者作業員の適正配置・無資格者作業の排除

●安全スローガン

「決めたことを守る勇気と続ける努力、みんなで築こう安全職場」

各事業所・工事作業所での取り組み

全国の事業所や工事作業所では、安全大会を実施するとともに、ポスターやステッカーなどの安全ツールを活用しながら、安全対策の徹底に努めています。また、作業手順確認とあわせて危険予知活動を促進し、この情報を共有することで、さまざまなケースによる災害を未然に予防するように努めています。



事故事例教育シート▶
災害原因を分析し防止・予防対策を全員で共有することを目的に作成し、安全教育の実施資料として活用することで、組織的な指導体制を整備しています。

▲現地KYK兼作業手順確認書
作業を開始する前に全作業員がその手順書を見れば同等の仕事ができるように、手順を確認し、危険予知活動を行ってから作業を進めています。



▲安全ポスター&ワッペン
安全衛生計画で明記された安全スローガンや標語をポスターやワッペンにし、「事故・ケガ・災害」ゼロを目標として周知徹底に努めています。



▲社長による安全パトロール
各工事作業所には社長自ら安全パトロールに定期的に訪れ、災害防止への取り組みを強化しています。

「安全の日」に、全社で安全大会を実施しています

当社では1993年に起こった労働災害を教訓とし、毎年7月7日を「安全の日」と定め、全社をあげて安全大会を開催しています。協力会社も参加するこの安全大会では、災害の防止対策や予防対策の徹底・促進の呼びかけを行

うとともに、安全への取り組みに貢献した優秀工事の表彰などを通じて、安全衛生の大切さを全社で再確認しています。



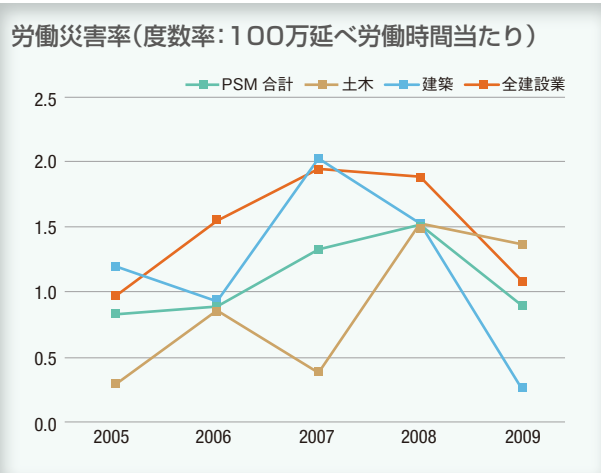
東京支店安全大会で挨拶をする田中東京支店長



大阪支店安全大会で挨拶をする蔵本大阪支店長

2009年度の安全成績

労働災害率は前年度より減少したとはいえ、2009年の労働時間数に対する災害発件数の度合い(度数率0.90)となり、残念ながら墜落・転落、挟まれ・巻き込まれなどの災害が発生しました。全建設業のデータと比較すれば、低い度数率を維持していますが、機械関連・鋼材の取扱に関連するもので挟まれたり巻き込まれたりする、いわゆるヒューマンエラーによる災害が発生しています。こうした人的・管理的原因からの災害要因をなくすため、今後も作業所安全衛生協議会が主体となって労働安全衛生マネジメントシステムのPDCAを徹底し、さらなる災害防止活動に取り組んでいきます。



2009年度における主な安全表彰

表彰名	プロジェクト名
厚生労働省労働基準局 無災害表彰	第08-4135-0146号国道改築工事(西沢橋)
	電源立地促進工事(請戸橋)
西日本高速道路株式会社 関西支社	第二京阪道路交野高架橋(PC上部工)工事
	阪和自動車道吉備高架橋(PC上部工)工事
建設業労働災害防止協会 全国大会優良賞	東五反田一丁目計画新築工事
建設業労働災害防止協会 支部優秀賞	西片1丁目マンション計画新築工事

第08-4135-0146号国道改築工事(西沢橋)
厚生労働省労働基準局
無災害表彰



東五反田一丁目計画新築工事
建設業労働災害防止協会
全国大会優良賞



品質へのこだわり

ピーエス三菱の品質方針(概要)

1. 品質確保とブランドの維持、向上

提供する成果物の品質に顧客(注文主)が満足することはもとより、最終ユーザーの視線を大切に、長期間の使用に十分応えられるよう更なる利便性と耐久性を追求し、保有技術の質を高めると共にPC技術を応用することにより、わが国トップのPCゼネコンを目指す。

2. CSRへの意識改革

関係法令、社会的規範を遵守した事業活動の遂行、経営の透明性の向上に努めると共に、「もの造り」としての工事作業所を発信基地として地域住民や関連業者と健全で創造的な関係を構築する。

3. 安全意識の徹底

安全最優先の企業風土を創るためには、危険に対する感受性に磨きをかけると共に、関係者が自由に指摘し合う風通しの良い職場造りが不可欠である。その上に立って、練り上げた作業手順に基づく安全作業の遵守により無災害職場の確立を目指す。

品質マネジメントシステム(QMS)による品質改善活動を推進しています

当社では、「顧客ならびに最終ユーザーに十分満足して戴ける性能を備えた製品を提供する」ことを目的として、品質マネジメントシステムを構築し1997年よりISO9001に基づく審査登録機関による認証を取得しています。このシステムのPDCAサイクルを通して、当社が企画・設計・施工する建設生産物の品質保証にとどまらず、工事・工場製品の受注から施工・製造および引渡・アフターサービスにいたるまでの業務を含めた継続的な品質向上に努めています。



ISO9001登録証

●内部監査 2009年度結果

ISO9001に基づく内部監査は、当社のQMSに適合し、QMSの有効性を確認するために毎年実施しています。2009年度は58部署・作業所で内部監査を実施し、教育・訓練に係るものをはじめとした62項目の指摘がありました。この結果を踏まえ、ISOの考え方を業務に反映し、QMSを有効に活用しながら業務改善に取り組みます。

●外部監査 2009年度結果

「ISO9001 第4回更新審査」が実施され、認証登録が更新されました。この審査結果を踏まえて、それぞれの対象部署において、対応策を立案し、改善が実施されました。

- ▶実施日: 2009年5月18日~5月21日
- ▶審査機関: 日本検査キューエイ(株)
- ▶審査サイト: 本社および東北支店(建築作業所)、東京支店(内勤部署・土木作業所・建築作業所)、名古屋支店(内勤部署・建築作業所)、大阪支店(内勤部署・土木作業所・建築作業所)、広島支店(土木作業所)、九州支店(内勤部署・土木作業所・久留米工場)、ピー・エス・コンクリート株式会社(本社・滋賀工場・兵庫工場)
- ▶審査結果: 重大な不適合 0件 / 軽微な不適合 0件
改善要望 43件 / 強み等コメント 5件

嵯峨谷川橋上部工事

CSRコミュニケーション

ピーエス三菱協和会

重要なパートナーとしての 「ピーエス三菱協和会」

ピーエス三菱では、一般的な土木・建築工事から専門性の高いPC工事まで、「ピーエス三菱協和会」に所属する協力会社より幅広いサポートをいただいています。当社にとってこの「ピーエス三菱協和会」は、お客様に高品質の建設生産物を提供するために欠かせない重要なパートナーであり、各支店や各工事作業所での日々の打ち合わせや、安全大会などを通して日頃から円滑なコミュニケーションを培い、ともに労働災害の撲滅を目指しています。

●ピーエス三菱協和会による被災地への支援を実施

ピーエス三菱協和会では、2009年8月11日に発生した静岡沖地震にともなう東名高速道路の災害復旧工事を支援しました。地震によって上り線の盛土が約40mに渡って崩落した現場の復旧工事の要請を請けて、人材・機材を確保し、昼夜作業で応急復旧にあたりました。その功績により中日本高速道路(株)から感謝状が贈られました。



協力会社に向けたCSRの取り組み

協力会社とともに、さまざまなCSR活動を展開しています

協力会社と「一心同体」で工事を進める当社では、CSR活動も協力会社との「二人三脚」で行っています。リスクマネジメント・コンプライアンス推進活動と、コミュニケーション推進活動の2つを柱に、研修会や集合教育などを通して当社の厳格なCSR体制へのご理解と対応をお願いしています。



協和会集合研修

●リスクマネジメント・コンプライアンス推進活動

- ①協力会社経営者研修の実施
 - ▶事業主研修(安全の観点から)
 - ▶災害発生による影響(総合評価方式入札への企業評価)
 - ▶建設業法遵守(法務の観点から)
- ②安全衛生委員会の開催
 - ▶毎月開催の当社委員会に協力会社幹部が出席し、前月の安全パトロール結果を検証しながら各現場に水平展開を図る

●コミュニケーション推進活動

- ①土木工事部(協和会)研修会
 - ▶モデル現場の安全施工サイクルを見学し、良好な点を水平展開する。特に現地KY(危険予知)活動の工夫・指差し呼称について向上を図ることができた
- ②土木工事統括部集合教育(協和会合同安全研修会)
 - ▶統括安全管理、リスクアセスメント、ヒヤリハット、経験講和など

下請取引の適正化に向けて

当社では、協力会社工事請負契約約款の改定を行い、下請取引の適正化に努めるとともに、反社会的勢力排除について条項を追加しました(2010年4月15日改定)。これは2007年6月の犯罪対策閣僚会議において制定された、「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」へ対応しています。

株主とともに

利益配分に関する基本方針

当社は株主・投資家の皆様に対する配当政策を経営上の最重要課題のひとつと考えており、健全な経営基盤を維持するため、内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。

開かれた株主総会を目指して

集中日を回避して株主総会を開催しています

当社は、当社株主総会により多くの株主の皆様がご出席いただけるよう、集中日を回避して株主総会を開催しています。第62回定時株主総会(2010年3月期)は、2010年6月25日に開催いたしました。株主総会その他のIR活動を通して皆様とのコミュニケーションを図るなかでいただいた貴重なご意見につきましては、誠意をもって検討し、経営に活かすよう努めてまいります。



株主総会

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

タイムリーな情報開示に努めています

ステークホルダーの皆様への情報開示のひとつの方法として、当社ではホームページ上に「IR情報」のページを開設して重要な財務情報が常に閲覧できるようにし、より迅速で透明性の高い情報開示に努めています。当社のホームページ上では、トップページにおいて常に新しい情報をお伝えしているほか、企業活動の全体像を把握していただくため「CSR情報」や、「技術情報」「実績集」などの最新情報も掲載しています。



IRホームページ

「株主通信」を定期的に発行・配布しています

2007年3月期より、従来の「事業報告書」を「株主通信」と改め、半期ごとに株主の皆様のお手元にお届けしています。該当する期間で報告すべき経営状況、研究開発情報、完成工事情報、決算情報を写真や図解を用いて株主の皆様にわかりやすくご紹介し、PCを核とした当社の技術力に興味や関心を持っていただけるように工夫しています。



株主通信

従業員とともに

基本的な考え方

ピーエス三菱は、「企業は社員とともに成長する」という考え方から、各種研修やジョブローテーションを通じた従業員の能力開発とキャリアアップを支援しています。人権や労働三権などの権利を尊重し、医療・年金制度などのセーフティーネット^{※1}を確保して安心できる雇用環境を整備する一方で、技術志向の企業として、ダイバーシティマネジメント^{※2}の考え方も取り入れ、円滑で活発な社内コミュニケーションが行われる中で社員の独創性が育まれるような、元気のいい社風の醸成に努めています。

※1 セーフティーネット：社会保障の安全や安心の仕組み
※2 ダイバーシティマネジメント：多様性の受容

働きがいのある職場づくりをめざして

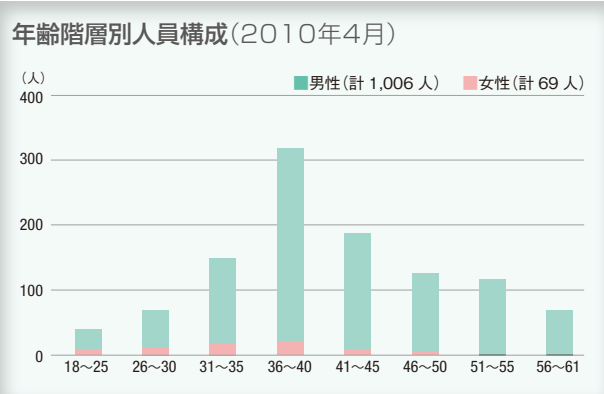
よりよい職場環境の拡充に努めています

人権の尊重

ピーエス三菱では、「行動指針」の中で人権の尊重を謳い、「三菱人権啓発連絡会」への積極的な参加や、全社員を対象にした「人権研修会」の実施を通して、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどのコンプライアンス違反を許さず、差別や偏見がなく、むしろ異なる価値観を経営に活かすような公正で明るい職場づくりに努めています。

バランスのとれた社員構成をめざして

当社は、団塊の世代と第二次ベビーブームの35～40歳までの世代が突出して多くなっています。技術の伝承や管理職のマネジメント能力の育成という観点から、より均整の取れた年齢構成や職場でのゆとりある要員配置が求められており、当社では新規および中途採用の積極的な雇用や技術者の流動的な配置を進めています。



高齢者および障がい者雇用の促進

本格的な少子高齢化が進展するなか、当社では高齢者の積極的な活用を目指して「コース選択制度」を導入し、「シニア社員契約」による60歳以降の継続雇用を実現しています。障がい者雇用については、2009年度については1.66%となっております。法定雇用率を若干下回る状況ですが、障がいのある方々の働き方を考えながら、長期的な視野での雇用率達成をめざしていきます。

種類別採用人数(2010年4月)

	08年	09年	10年
新入社員	11名	10名	16名
中途採用者	6名	3名	2名
シニア社員	9名	9名	6名

女性従業員の雇用

当社では、人権尊重の立場に立ったうえで、個人の多様な価値観を認め、性別に関係なく活躍できる風土づくりを目指しています。女性ならではのきめ細やかな感性を活かしたサービスの提供は、ステークホルダーの多様化するニーズに応える意味でも、今後ますます重要になるものと思われることから、技術や技能といった分野での女性技術職の採用や育成に取り組む一方で、家庭を持つ女性にとっても働きやすい職場環境の整備にも力を入れてまいります。

健全な労使関係の構築

当社は、企業の発展こそが「雇用の安定」と「労働条件の維持向上」につながるという労働組合の考えに共感するとともに、労使間の対話を重視し、労使懇談会・労使協議会などを通じて意見交換を行っています。職場環境の改善、賃金水準の維持向上、従業員のメンタルヘルスケアなど、労使にて取り組むべき課題は数多くあります。こうした課題についても労使にて年間を通じた対話の機会を設け、解決に向けた取り組みを行っています。

メンタルヘルス研修を延べ278人が受講

すべての社員が健康に働ける環境を整備するため、さまざまな機会を捉えて社員のメンタルヘルスケアに取り組んでいます。2010年度は、一人ひとりがメンタルヘルスに関する正しい知識を習得し、自分自身の心の健康を保てるよう「メンタルヘルス研修」を実施しています。年間を通じて継続的に実施しており、2010年度上期では延べ278人が受講しました。また、労働組合と共同で時間外労働時間の削減に向けた「統一土曜閉所運動」「ノー残業デー」といった取り組みにも注力しています。

社内コミュニケーションを促進

当社では、社員の活力こそが企業発展の原動力と考えており、社内コミュニケーションの向上を重要な経営テーマの一つと捉え、社内イントラで経営者の考えをダイレクトに伝える「社長チャンネル」をはじめ、様々な取り組みを行って風通しの良い社風の醸成に努めています。



▲社内研修実施時に「経営層との対談」を実施
現場の最前線で働く若手社員と経営層との情報・意見交換の場として活用されています。



◀工事現場の所長と役員をつなぐホットラインとなっている「週報」(→p23)

▶CSRに関する様々な情報や話題を掲載する「CSRサイト」

「仕事と生活の調和」の実現に向けた取り組み

当社では、4週6休を目安とした休日取得の励行や「ノー残業デー」の設定、また「記念日休暇」の導入など従業員の労働時間の短縮に向けて取り組んでいます。また、休暇取得が困難な工事作業所では、工事作業所を異動する際の工事休暇制度(最大3日間)を実施しています。また、「育児休業制度」「介護休業制度」「子の看護休暇制度」などを導入して取り組んでおりますが、後者の各制度の利用率はまだ低い状況です。こうした状況は、建設業界に関わらず日本の産業界全体の傾向でもあります。建設業においては長時間労働などの労働環境も一因となっているものと思われます。「仕事と生活」のバランスについては、基本的には個人の人生観によってそれぞれが決める問題ですが、当社では、今後とも労働組合と協同しながら、より「生きがいのある人生」の選択につながるような各種制度の拡充に努めていく考えです。



▶季刊で社内報「PSMC」を発行・配布
経営トップのメッセージや、工事情報を含む全国の各支店の最新情報などを掲載



従業員の自立を支援

ピーエス三菱ではさまざまな従業員研修を企画して、従業員の積極的かつ意欲的な自己啓発を促し、キャリアアップのための支援を行っています。とくに、入社10年目までの技術系従業員については、当社の技術力、業務のノウハウを伝達する重要な育成期間と捉え、早い段階からの自立を促すべく、多様な研修プログラムを組んでいます。

2009年度に開催された主要研修

※受講者数:全国各地で受講した従業員の総数



管理職マネジメント研修
受講者数:23名
リーダーシップとマネジメント力の高いプロ意識を醸成し、与えられた経営資源を活用して課題解決を推進するためのスキルを養成します



スキルアップ研修
受講者数:19名
入社後5年を経過した技術者を対象に、技術レベルの向上、工程・品質管理のトータル管理技術の習得をめざします



ジャンプアップ研修
受講者数:32名
技術者を対象に、会社に貢献できることを再考するとともに、不具合事例などで技術レベルの向上を図り、技術の創意工夫を養います



海外研修
受講者数:1名
団体での国際会議出席、特定の海外視察団など団体の一員として海外に派遣します



新人社員研修
受講者数:9名
当社の組織・業務内容・諸規則に触れ、社会人としてまた会社の一員としての基礎的な知識や基本的マナーを習得するために受講します

管理職マネジメント研修



Environmental Activities

環境への取り組み

基本的な考え方

当社は事業活動における環境負荷を低減し、人と自然が調和した建設生産物である社会資本をいかに長く持続させるかに貢献してまいります。そのために長年培った地域環境に配慮した技術だけでなく、地球環境保全を考慮した技術の探求に努めています。特に地球温暖化防止、廃棄物リサイクル、グリーン調達推進など、環境面に好影響を与えるべく積極的な活動が大きな使命と考えています。

環境方針

ピーエス三菱は、企業活動において地球環境に様々な影響を与えていることを認識しています。そして発生する環境問題を継続的に改善する活動は、社会的責任であると考えています。当社は「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」の基本理念に基づき、公害防止および自然環境保護に積極的に取り組みます。そして持続的発展が可能な社会の形成と地球環境保全に貢献するために次の活動を行います。

1. 環境に関する法規制や地域協定等を遵守する。
2. 土木・建築構築物施工及び工場製品製作において次の取り組みを行う。
 - (1) 地球温暖化防止のためにCO₂の排出抑制に努める。
 - (2) 騒音・振動・粉塵等の地域環境汚染の防止に努める。
 - (3) 廃棄物の発生抑制及びリサイクルの推進に努める。
 - (4) 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域環境の保全に協力する。
3. 設計段階において長寿命化、省資源化、省エネルギー化を図り、自然環境と共生した構築物の提案に努める。
4. 環境に配慮した技術開発を積極的に推進し、PC技術を核とする技術力向上に努める。
5. 日常業務において省エネルギー、省資源に努めるとともにグリーン調達に努める。
6. 社員教育や取引業者への教育を通してこの方針の周知徹底を図る。

方針達成のために環境目的・目標を設定し、マネジメントレビューを通してその取り組みを継続的に改善します。

環境経営

環境目標達成実績

当社の2009年度の実績は次のとおりでした。 評価基準：◎達成 ○ほぼ達成 ×未達成

項目	2009年度 環境目標	2009年度 目標値	達成値	評価
廃棄物の適性処理	再資源化率の向上 ^{※1}	発生木材再資源化率85%以上	95.0%	◎
	再資源化・縮減率の向上 ^{※2}	建設汚泥再資源化・縮減率95%以上	95.5%	◎
	混合廃棄物の削減 ^{※3}	2005年度比10%削減	作業所 14.1%削減	◎
			工 場 88.2%削減	◎
	ゼロエミッションの推進	ゼロエミ達成作業所50%以上	41.1%	×
環境汚染の防止	CO ₂ 排出量の削減推進 ^{※4}	2005年度比10%削減	オフィス 32.6%削減	◎
			作業所 17.8%削減	◎
			工 場 10.1%増加	×
グリーン調達	建設資材のグリーン調達推進 ^{※5}	グリーン調達率30%以上	17.2%	×
環境配慮設計	ライフサイクルをも考慮した環境配慮設計	環境配慮設計実施率80%以上	34.9%	×
環境配慮技術開発	環境配慮技術開発の推進	社会のニーズを配慮した技術開発の推進	PCコンファインド、SPADシステム、PCaPC工法など	○
資源・エネルギーの削減	オフィス活動での電力使用量の削減 ^{※6}	2005年度比10%削減	5.9%増加	×
	オフィス活動でのコピー用紙使用量の削減 ^{※7}	2005年度比10%削減	8.9%増加	×

※1再資源化率＝(再使用量＋再資源化量)／発生量
※2再資源化・縮減率＝(再使用量＋再資源化量＋減量化)／発生量
※3原単位で評価(作業所は売上げ1億円当たり、工場は生産量1千t当たり)
※4原単位で評価(オフィスは全数量、作業所は売上げ1億円当たり、工場は生産量1千t当たり)
※5主要資材のグリーン調達率で評価⇒グリーン調達率＝グリーン調達料／主要資材投入量
※6原単位で評価(オフィスの床面積1m2当たり)
※7原単位で評価(内勤者1人当たり)

環境目的・目標

2010年度の環境目標は2009年度の達成度(3月末見込み)を考慮して策定しました。

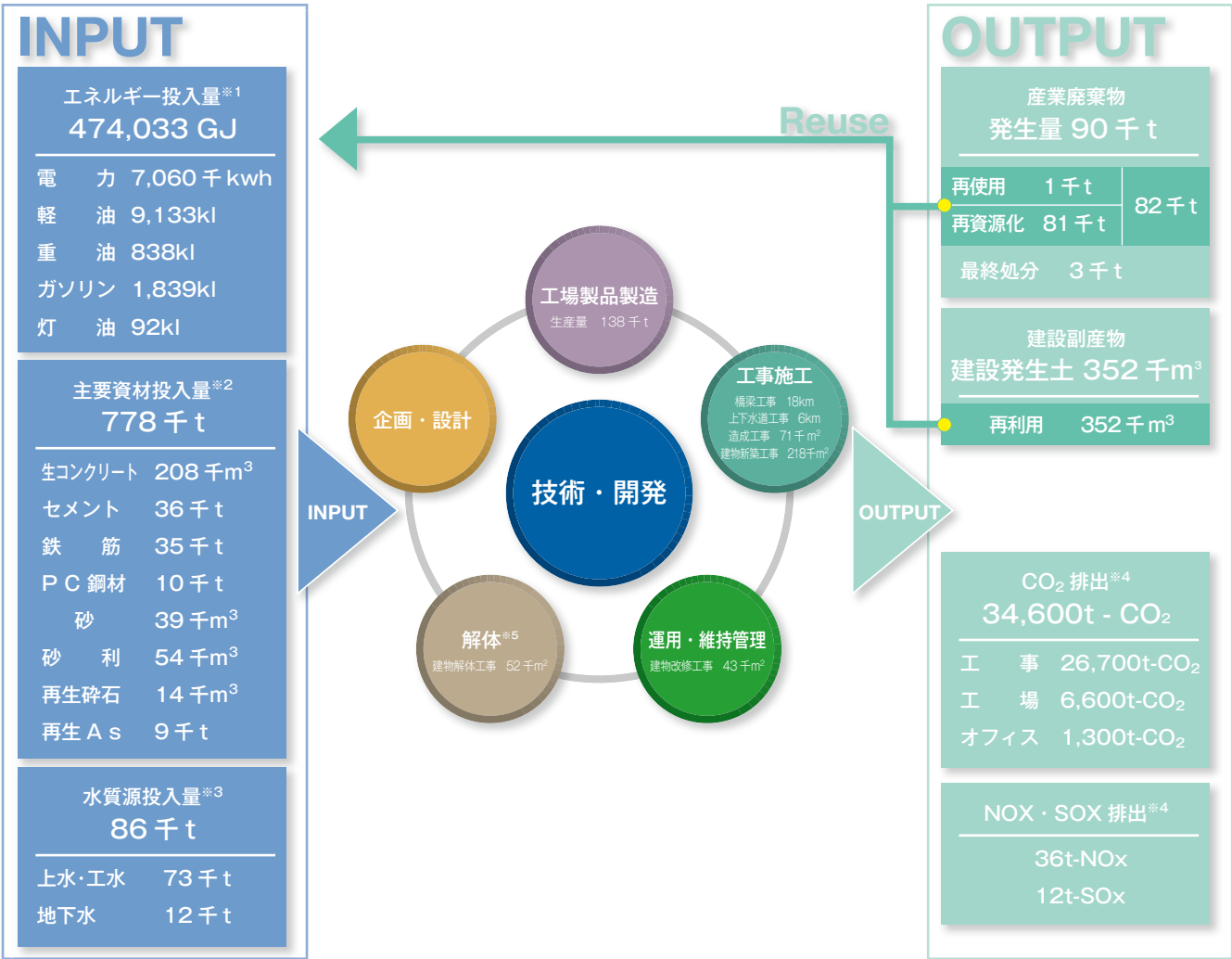
項目	環境目的(2012年度までの到達点)
廃棄物の適性処理	作業所・工場から排出される産業廃棄物の再資源化を推進する ①混合廃棄物排出量を2008年度比10%削減する ②65%以上の作業所でゼロエミッションを達成する
環境汚染の防止	CO ₂ 排出量2008年度比10%削減する
グリーン調達	作業所・工場で使用する主要5品目材料のグリーン調達率30%以上とする 主要5品目：鋼材(鉄筋、PC鋼材)、生コンクリート、セメント、石材(碎石、砂利、砂など)、アスファルト・コンクリート
環境配慮設計	構築物のライフサイクルをも考慮した環境配慮設計を80%以上実施する 環境配慮設計：施工時の省エネルギー、省資源化の配慮および施工後の省エネルギー、長寿命化の配慮
環境配慮技術開発	社会の環境ニーズに迅速に応え、環境に配慮した技術開発を推進する
資源・エネルギーの削減	オフィス活動における環境保全活動を推進する ①電力消費量を2008年度比10%削減する ②コピー用紙使用量を2008年度比10%削減する

項目	2010年度 環境目標	2010年度 目標値
廃棄物の適性処理	混合廃棄物の削減	2008年度比5%削減
	ゼロエミッションの推進	55%以上の作業所でゼロエミッション達成
環境汚染の防止	CO ₂ 排出量の削減推進	2008年度比5%削減
グリーン調達	建設資材のグリーン調達の推進	グリーン調達率20%以上
環境配慮設計	ライフサイクルをも考慮した環境配慮設計	環境配慮設計実施率60%以上
環境配慮技術開発	環境配慮技術開発の推進	社会のニーズを考慮した技術開発の推進
資源・エネルギーの削減	オフィス活動での電力使用量の削減	2008年度比5%削減
	オフィス活動でのコピー用紙使用量の削減	2008年度比5%削減

事業活動とマテリアルフロー

当社は多くのエネルギーや資材を投入して建設工事を行い、同時に多くの建設副産物や温室効果ガスなどを排出しています。これらをできるだけ定量的に把握し、持続可能な循環型社会形成のために、資源の有効利用を図ることはもちろんCO₂排出量などの削減を図らなければなりません。

2009年度の主なエネルギー・資源投入量、事業活動結果および環境負荷物質などの排出は次のようになりました。



それぞれの数量を2008年度と比較すると次のようになりました。

インプット ● 主要エネルギー投入量: +15,323GJ (+3.3%)	アウトプット ● 産業廃棄物発生量: -91,000t (-50.0%)
主 要 資 材 投 入 量: -393,000t (-33.8%)	産業廃棄物再資源化量: -77,000t (-49.0%)
事業活動結果 ● 工場製品生産量: -132,000t (-48.9%)	産業廃棄物最終処分量: -5,000t (-60.4%)
橋 梁 工 事: +7km(施工延長) (+63.6%)	CO ₂ 排出量: +400t (+1.2%)
建物新築工事: -108千m ² (床面積) (-33.1%)	

※1:エネルギー投入量のうち、工事施工に伴うものは、サンプリングにより調査した結果より推定しています。
※2:主要資材投入量のうち、再生砕石、再生As投入量については、サンプリングにより調査した結果より推定しています。
※3:水資源投入量は、工場製品製造に伴う投入量です。
※4:CO₂排出量、NO_x、SO_x排出量のうち、工事施工に伴うものは、サンプリングにより推定しています。
※5:建物新築工事、建物改修工事、建物解体工事の数量は床面積です。

環境への取り組み

総エネルギー投入量

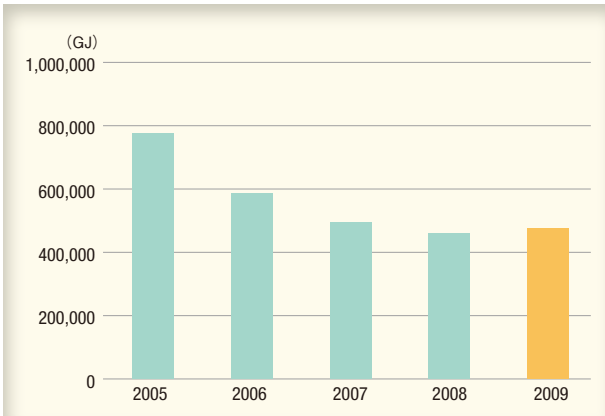
総エネルギーの投入量は、以下の通りです。

エネルギー投入量の推移

(単位:GJ)

項目		投入量				
		2005	2006	2007	2008	2009
電力 石油類	電力	36,649	39,873	31,531	31,488	25,415
	軽油	647,327	438,014	389,311	356,907	348,873
	重油	59,339	55,247	49,634	53,946	32,750
	灯油	8,212	24,747	5,342	5,127	3,364
	ガソリン	22,533	26,875	20,126	11,242	63,631
合計		774,061	584,755	495,944	458,710	474,033

※エネルギー源別発熱量は、資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量一覧表(2001年3月30日)」により算出しています。(1GJ=1,000,000,000J)



グリーン購入の実績と推進

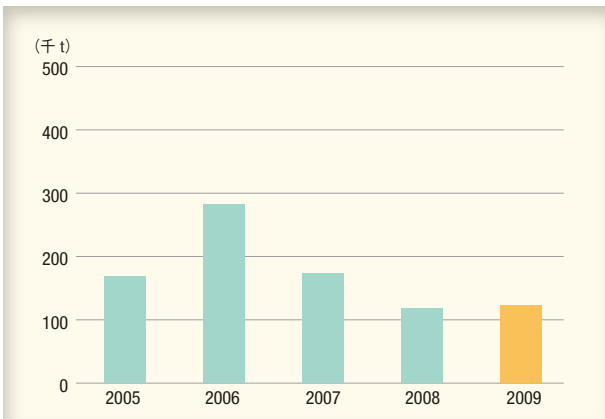
当社では、グリーン購入の推進品目として主要5品目※を定めてその使用を推進しています。主要資材のグリーン購入実績は、以下の通りです。

※主要5品目は、鋼材(電炉鉄筋等)、生コンクリート(高炉生コン等)、セメント(高炉、エコ等)、石材(再生砕石等)、アスファルト・コンクリート(再生As)をいう。

主要資材のグリーン購入の推移

(単位:千t)

項目		主要資材のグリーン購入数量				
		2005	2006	2007	2008	2009
再生砕石		79.2	208.3	91.9	35.0	25.3
再生As		24.6	20.8	11.4	14.0	9.1
鉄筋(電炉)		54.6	52.7	57.4	54.6	35.2
高炉セメント		9.6	0.8	12.5	13.4	53.5
合計		168.0	282.6	173.2	116.9	123.1



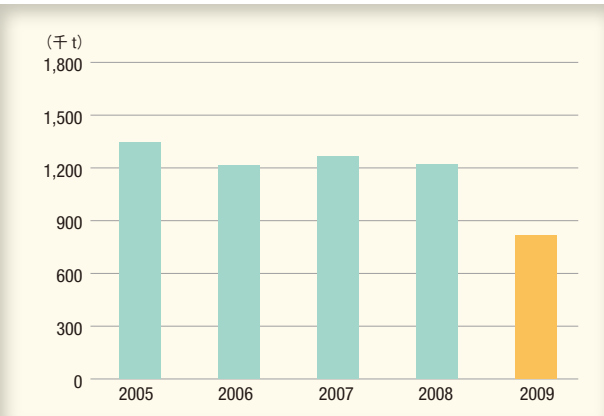
主要資源投入量

事業活動における主な資源の投入量は、以下の通りです。

主要資源投入量の推移

(単位:千t)

項目		主要資源投入量				
		2005	2006	2007	2008	2009
生コンクリート		1,003	821	867	702	479
セメント		34	36	34	47	36
鋼材		63	61	66	67	46
砂利・砂		167	219	224	297	167
水		76	79	77	109	86
合計		1,342	1,215	1,268	1,221	814



地球温室効果ガス排出量

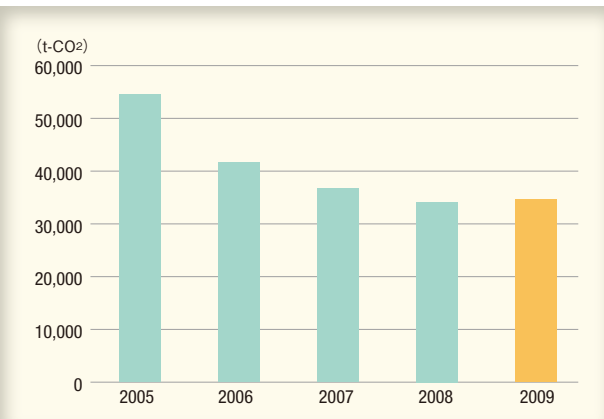
地球温室効果ガス(CO₂)の排出量は、以下の通りです。

CO₂排出量の推移

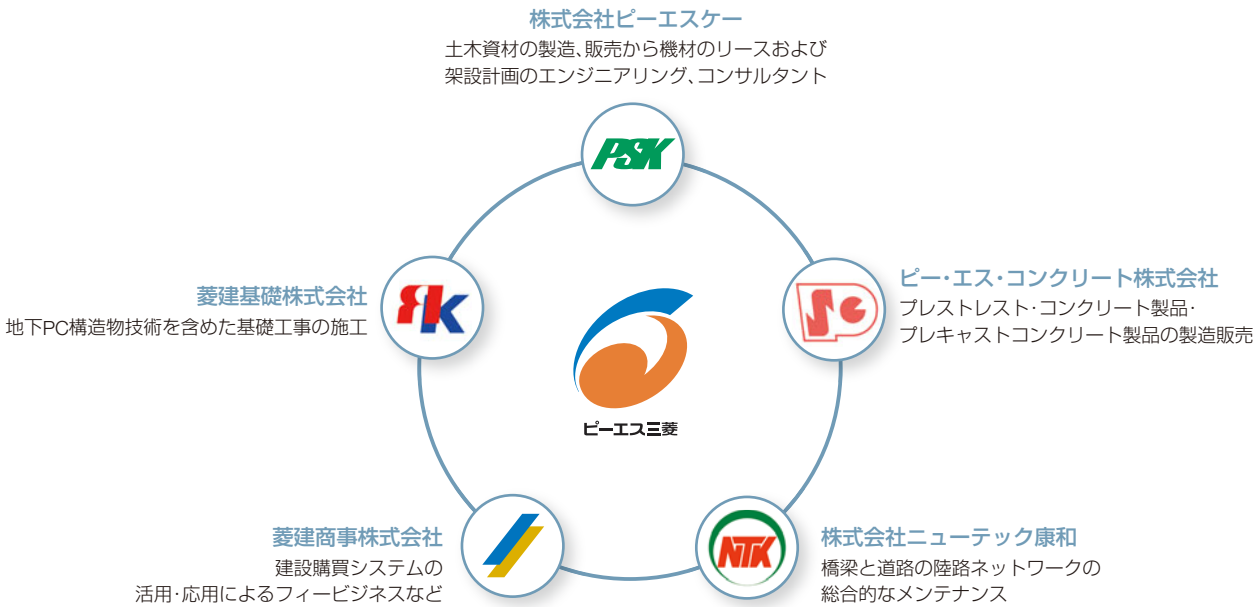
(単位:t-CO₂)

項目		排出量				
		2005	2006	2007	2008	2009
電力		3,848	4,187	4,861	4,854	3,918
石油類	A重油	4,112	3,829	3,440	3,738	2,270
	軽油(燃料)	40,196	25,968	19,822	16,396	19,188
	軽油(走行)	4,302	4,123	6,872	8,076	4,733
	灯油	558	1,680	362	348	228
	ガソリン(走行)	1,512	1,803	1,350	754	4,270
合計		54,501	41,590	36,707	34,167	34,607

※2007年度から地球温室効果ガス排出係数は、環境省地球環境局「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver1.2) H19.2」により見直しています。



ピーエス三菱の国内ネットワーク



株式会社ピーエス三菱

東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル
〒104-8215 TEL: 03-6385-9111(代)

国内事業所

東京支店

東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル
〒104-8572 TEL: 03-6385-9511(代)

東北支店

宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 東菱ビル
〒980-0811 TEL: 022-223-8121(代)

名古屋支店

愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 キリックス丸の内ビル
〒460-0002 TEL: 052-221-8486(代)

大阪支店

大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 OAPタワー
〒530-6027 TEL: 06-6881-1170(代)

広島支店

広島県広島市中区袋町4番25号 明治安田生命広島ビル
〒730-0036 TEL: 082-240-7011(代)

九州支店

福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 東芝福岡ビル
〒810-0072 TEL: 092-739-7001(代)

技術開発

技術研究所

神奈川県小田原市南鴨宮2-1-67
〒250-0875 TEL: 0465-46-2780(代)

工場

七尾工場

石川県七尾市矢田新町木部59番地
〒926-0015 TEL: 0767-53-5577(代)

久留米工場

福岡県久留米市荒木町白口1200番地
〒830-0062 TEL: 0942-26-2121(代)

関連会社

株式会社ピーエスケー

東京都中央区日本橋本町3-8-5 昭栄日本橋本町ビル7階
〒103-0023 TEL: 03-5643-5651(代)
<http://www.ps-k.co.jp/>

ピー・エス・コンクリート株式会社

東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル
〒104-8215 TEL: 03-6385-9025(代)
<http://www.psc.co.jp/>

株式会社ニューテック康和

東京都北区中里二丁目9番5号
〒114-0015 TEL: 03-3918-0168(代)
<http://www.newtech-kowa.co.jp/>

菱建商事株式会社

東京都江東区三好1-8-3 パークヒルズ越前屋3階・4階
〒135-0022 TEL: 03-5620-8011(代)
<http://www.ryoken.co.jp/>

菱建基礎株式会社

東京都文京区大塚5丁目7番12号 NKビル新大塚4階
〒112-0012 TEL: 03-5319-3511(代)
<http://www.ryokenkiso.co.jp/>



株式会社ピーエス三菱

〒104-8215 東京都中央区晴海 2-5-24 晴海センタービル
TEL.03-6385-9111 FAX.03-3536-6927
<http://www.psmic.co.jp/>

お問い合わせ先

管理本部 法務・CSR 推進部
〒104-8215 東京都中央区晴海 2-5-24 晴海センタービル
TEL.03-6385-8002 FAX.03-3536-6927
E-mail:webmaster@psmic.co.jp

